財団法人 日本ハンドボール協会編　平成22年11月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻514号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集

第39回全国中学校大会
第15回ジャパンオープントーナメント
第37回全国高等専門学校大会

11月号
NOV.2010・No.514



表紙写真　第39回全国中学校大会　[illegible]の躍動　平針中学校・田中[illegible]里子選手　写真撮影　スポーツイベント(社)

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

継続的な五輪出場を目指した強化



(財) 日本ハンドボール協会強化本部長　**西窪 勝広**

現在、日本ハンドボール界にとって厳しい状況が続いている。男子はソウルオリンピック、女子はモントリオールオリンピックを最後にオリンピック出場の機会を得ていない。是が非でもロンドンオリンピックの出場権を獲得し日本のハンドボールに世界の風を送り込みたい。

オリンピックに出場する為にはアジアを勝ち抜くことが一番の条件であるが、アジアを突破するには世界で上位に食い込む実力が必要なことは言うまでもない。其の為にこの10年間にわたり長期的な視野に立ち強化策を行ってきた。特にタレント発掘と一貫指導において様々な試みを講じた。ロンドンオリンピック出場を目指す今、この10年間での試みを基礎とし強化、医事、情報科学の各セクションが有機的に連携した施策を推進することにより、オリンピック出場という結果に結び付けたい。

オリンピック出場は非常に価値があることは十分に認識しているし、真の意味での競技力向上の価値があるものと確信している。日本が継続的にオリンピックに出場する為には、日本代表チームに継続的に高い競技力を有する選手を供給しなければならない。其の為には各カテゴリーの充実が必須である。

2000年に設立したナショナルトレーニングシステム（NTS）は中学、高校の有望選手を対象にタレント発掘と指導指針の一貫化を目的とした事業であり、これまで述べ8,580名の選手がNTSを経験し、そこで発掘された有望選手が現在の国内リーグの主力となっている。また、2008年に発足したJHAジュニアアカデミーでは、NTSで発掘したタレントの更なる強化と指導者育成を目的に、極めて競技力の高い高校生、大学生を対象に継続的なトレーニングを行い、日本代表チームに選手を供給できる実績も出てきている。

ロンドンオリンピック出場が現段階では最大の目的ではあるが、継続的に能力の高い選手を発掘し、育成し、トップ代表に選手を供給するシステムを構築していく事が重点強化策である。

また、一貫指導システムで育成した選手を日本代表チームでピーキングさせる仕組みにも注力していく事が大切である。

「アジアNo.1に返り咲く」を目標におき、「全てのベクトルを強化に向ける」という基本方針のもと活動する上で、指導者、人材の充実も不可欠である。NTSによる選手発掘、JHAジュニアアカデミーでの競技者育成プログラムに基づいた一貫指導で継続的強化を進めると共に、強化、医事、情報科学が連携を基礎とした強化政策を実施していき、2012年のロンドンオリンピック出場とその後のオリンピックに継続的に出場できる競技力向上を目指し強化に努めてまいります。

皆様方のご協力なくしては実現できません。何卒宜しくお願い申し上げます。

第39回
全国中学校
ハンドボール大会

男女とも名古屋市立平針中学校が優勝！

＊男女アベック優勝は、第11回大会での芦城中（石川県）以来２度目の快挙！

【最終順位】

〈男子〉

優　勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）
準優勝：守谷市立けやき台中学校（茨城県）
３　位：大阪体育大学附属中学校（大阪府）
　　　　長崎市立日吉中学校（長崎県）

〈女子〉

優　勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）
準優勝：氷見市立西條中学校（富山県）
３　位：高松市立香川第一中学校（香川県）
　　　　三郷市立北中学校（埼玉県）







３点共　写真提供：スポーツイベント社

第39回全国中学校ハンドボール大会回顧

第39回全国中学校ハンドボール大会開催委員会　万代 和孝

中体連ハンドボール専門委員会の中国ブロック長を務めるようになって４年目、私の地元広島県呉市で第39回全国中学校ハンドボール大会を開催することができました。関係者の皆様のご尽力のおかげだと、ただただ感謝するばかりです。誠にありがとうございました。

呉市は、旧海軍の軍港として栄えた町で、呉海軍工廠が設けられ戦艦大和が建造された町ということで全国からの観光客も後を絶ちません。その戦艦大和が建造されたドックは、今では地元IHI呉造船所になっていて、私が住む宮原の町からすぐ眼前に見渡すことができます。このように戦後の呉市は、海上自衛隊、そして造船、鉄鋼の町として発展しました。かつて日本リーグでも活躍し、全日本総合でも日本一になった日新製鋼ハンドボールチームがあるのも、ここ呉市です。今大会の女子１・２回戦の会場となったのが、この日新製鋼体育館でした。

広島県は、今も日本のトップチームである湧永製薬（ワクナガレオリック）、広島メイプルレッズ、そして日新製鋼と、強い実業団チームを持っており、ハンドボール熱そしてハンドボールへの関心度も高い土地柄です。これら実業団チームの選手の皆さんの指導や、地元広島県ハンドボール協会や呉ハンドボール協会の協力・指導で、ジュニア層の普及強化も進めていますが、結果を出すにはまだ時間がかかりそうです。

今回、中国ブロック代表は、男女とも山口県・岡山県でした。男子の第一代表山口県岩国中学校、女子の第一代表岡山県琴浦中学校はともに３回戦敗退でベスト８どまりでしたが、岩国中学校は優勝した愛知県平針中学校とは７点差でしたが、前半はリードして折り返し、最後まで競った好ゲームでした。岩国中学校の選手一人ひとりの身体能力の高さ、技術力は全国でもトップクラスであることを印象づけた素晴らしい試合でした。試合後の選手たちの涙でうなだれる姿は納得できる

ものでした。琴浦中学校も準優勝の富山県西條中学校と２点差の大接戦でした。琴浦中学校も全国において遜色ない好チームであることを示しました。琴浦中学校は選手のバランスのとれた好チームで、明るく元気なチームカラーも好印象でした。

地元広島県からは、男子がワクナガの地元甲田町の甲田中学校、女子がメイプルの地元広島市の亀山中学校が出場しました。残念ながら両チームとも初戦で敗退しましたが、甲田中学校は北海道の本通中学校と最後まで競って会場を盛り上げました。亀山中学校は、エースの選手が指の怪我でプレーできず、福島県の郡山第一中学校に大差をつけられ、不本意な結果に終わりました。それでも、両チームとも全国大会という晴れの舞台でかけがえのない経験ができたことを誇りに思えるのではないでしょうか。

さて、地元呉市からは残念ながら出場できませんでした。全国出場を合言葉にこの２年あまり呉ハンドボール協会にも指導していただきながらがんばってきましたが、目標は達成できませんでした。それでも、開会式では私の呉市立昭和北中学校主将の村上力斗くんが堂々とした態度で、自分の思いを込めてりっぱに生徒代表のあいさつをしました。涙が出る思いでした。さらに、ハンドボール部はもちろん呉市の中学生たちが、生徒役員としてたくさんの場面で大会を支えてくれました。裏方の仕事をすることで、これもかけがえのない経験になったと思います。

呉市にはハンドボール部のある中学校が４校しかなく、今大会を運営するにあたり、呉市中体連の先生方を総動員するくらい協力していただきました。さらに、私の大学時代からの友人たちも積極的に支えてくれ、友のありがたさ、仲間のありがたさをしみじみと感じました。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりご尽力いただきました日本ハンドボール協会・日本中体連・広島県ハンドボール協会・呉ハンドボール協会・広島県中体連・呉市中体連・協賛各位に厚くお礼を申し上げますとともに、次年度開催である京都府大会の成功を祈念いたしまして、今大会の回顧とさせていただきます。ありがとうございました。

男子優勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）

名古屋市立平針中学校男子監督　鳥本 岳志

第 39 回全国中学校ハンドボール大会において、平針中学校がアベック優勝することができました。日頃からご協力・ご支援いただいている学校関係者の皆様、保護者の皆様、そして連日の猛暑の中、大会運営にたずさわっていただいた役員、関係者の皆様に心より感謝したいと思います。

今年の開催地は広島県でした。選手たちには自分の夢や目標が戦争によって奪われることなく、平和な社会の中でスポーツに打ち込むことができることに感謝してプレーをして欲しいと願い、開会式前日に原爆ドーム・資料館を見学して大会にのぞみました。

このチームは順調にここまで来たわけではなく、挫折を経験しています。春の全国大会に向けての県予選準決勝で滝ノ水中学校に敗れ、全国へ出場することができませんでした。その全国大会では平針中学校女子部が優勝しており、選手たちには様々な思いがあったと思います。ここから本当の意味で新チームがスタートしたと言えるのではないでしょうか。キャプテンの松田を中心に自分たちに足らないものを徹底的に見つめ直し、「去年に続いて全国大会に出場する」を目標に、「Speedy Handball」をスローガンにし、そしてそれを支える「自主性（状況判断）」「チームワーク（信頼）」「継続（フィジカル）」「バリエーション」「闘争心」の５つのキーワードを意識して日々のトレーニングをおこないました。

さらに、コートの中で自分のプレーに責任をもつことができるよう、普段の生活でも自分で判断して行動ができるようにしようと心がけました。この半年間、コートの中でも、コートを離れた生活でも選手たちは向上心をもって努力しました。それを支える保護者の方々の絶大なる協力もあり、選手たちが日に日にたくましくなっていくのを感じることができました。

全国大会では決勝戦のけやき台中学校はもちろん、対戦させていただいたどのチームも自分たちのスタイルを確立しており、何度も劣勢に立たされる場面がありましたが、選手は自分たちがやってきたことを信じてプレーをし続けてくれました。それは、それぞれの選手が置かれた状況を乗り越える力をつけることができた一つの証明だと思っています。

最後になりましたが、私は２５年前のこの大会で東陵中の選手として優勝を経験させていただきました。その恩師であり、今大会中も様々なアドバイスをいただいた本谷先生、南山大でご指導いただいた日新製鋼の吹上コーチ、桜台高でご指導いただいた故稲石先生、いつも切磋琢磨している名古屋・愛知の先生方、名塚中・汐路中・平針中で関わってきた部員たち、そして、いつも支えてくれている家族にあらためて感謝したいと思います。

ありがとうございました。

名古屋市立平針中学校男子主将　松田　陸

春の全国大会予選、みんなが勝てると思っており、それが落とし穴でした。まったく自分達のプレーができませんでした。精神的な弱さから焦りが出て、いつもできていることができませんでした。春の全国大会への出場が無くなりましたが、そこから僕達の真剣勝負が始まりました。

まず、部活中だけでなく、普段の学校生活から気を引き締めるようにしました。「宿題や提出物の期限を守る」「授業中は積極的に発言する」「学校行事などクラスの先頭に立って行動する」などです。それから練習では、筋力トレーニングや走りこみに力を入れ、得意なチームメイトに引っ張ってもらい、チーム全体の底上げをしました。それによって体力がつき、あたり負けしない、走り負けしないチームができました。戦術についても、お互いに指摘し合い、会話しながら悪いところを修正しました。卒業した先輩達に相手をしてもらい、フィジカル面やスピード面で勝る相手やさまざまなスタイルへの対応も練習することができました。

そして市総体が始まり、先生からずっと言われている「いつも通り平常心で」という言葉を胸に試合に臨みました。退場者が出たり、連続失点したりなどのピンチはあったけれど、一人一人のやるべきことを集中してやり続けることで結果を出すことができました。こうして、僕達は自分たちのやることに「自信」「自身」をもてるようになってきました。

待ちに待った全国大会の舞台。練習でも全国の決勝でもやることは同じ、いつも通りやるだけ。今までサポートしてもらった先生方や保護者の方々、たくさん相手をしてもらった先輩方などすべての「Hirabari Handball Family」に感謝の気持ちを示す方法として、優勝という最高の報告ができたことを誇りに思います。

女子優勝：名古屋市立平針中学校（愛知県）

名古屋市立平針中学校女子監督　熊谷 博明

平成 22 年度全国中学校体育大会、第 39 回全国中学校ハンドボール大会において優勝できたことを大変うれしく思っています。これもひとえに、ご支援、ご理解をいただきました学校関係者の方々、保護者の方々、愛知県、名古屋市のハンドボール協会、ハンドボールに携わる先生方や指導者の方々のおかげであると深く感謝しております。また、部長として支えていただきました稲垣広和先生、トレーナーの加藤丈晴さんにご支援をいただいたことは言うまでもありません。

春の全国中学生ハンドボール大会で優勝し、生徒たちは、夏の全中でも優勝したいという思いがより一層強くなり、それを目標として４月からの練習がスタートしました。４月の名古屋市春季大会では、優勝はしたものの、生徒たちのポテンシャルの高さを考えると内容に不満の残る大会になりました。また、その後の練習に対する姿勢や取り組み方が春中の優勝がプレッシャーではなく、「慢心」と受け取られるように感じられることが少なくありませんでした。そうした中で５月の頃は、全中優勝どころか出場することさえも難しいのではないかと本当に思っておりました。私自身は、「慢心」をチーム内から排除させなければという思いが強くなり、厳しさを少しずつ浸透させなければこの子たちは本当にだめになってしまうのではないかという気持ちが大きくなり、練習や試合の中で、厳しさを生徒たちにぶつけたことで、私の気持ちと生徒たちの気持ちのずれが生じ、お互いの意思の疎通を欠いて、重苦しい日々が続きました。「春とは違う夏の険しい山に登るんだ、そのためにどうすればよいのか」を問いながら、昨年６月にチームを揺るがしたけがのこと、夏の大会においての一発勝負の厳しさをことあるごとに説きながら、春中前のみんなが一つになってチャレンジしようとする心を取り戻すことを生徒たちに求めました。６月には、練習試合の反省から生徒たちは、このチームに欠けている部分に気づき始め、それを克服するためにはどうしたらいいのかを考えながら練習しようという、変化が少し見られるようになってきました。私は、７月に入ってからも練習や試合で見られるマイナスの部分に対して、一発勝負の怖さを引き合いにして、厳しく生徒たちに接してきました。市大会期間中に行った高校生とのゲーム形式の練習で、チームが一つにまとまって集中できたときのすごさを実感することができ、名古屋市、愛知県、東海大会と続いた大会で徐々に態勢を整えながら全国大会に臨むことができました。迎えた全国大会、DF から OF へのリズムをつくることを意識させ、最後まであきらめない大住中、まとまりのある宇土鶴城中の試合を突破し、





迎えた準決勝、３年間取り組んできたことを全てはき出すことを目標に、粘り強い攻守の三郷北中を退け、最後の決勝戦は、チーム一丸となって雪辱を期して挑んできた西條中を落ち着いて攻略し、念願の優勝を勝ち取ることができました。

この優勝をご報告させていただいたとき、大変喜んでくださった恩師の小辻壽雄先生（元汐路中監督）と横井保信先生（元中京高校監督）にはまだまだ遠く及びませんが、今後少しでも近づけるように生徒に関わっていきたいと思います。

最後になりましたが、今大会の運営に携わっていただいた大会関係者の皆様、陰で大会を支えてくれた礼儀正しい中学生のみなさん、本当にありがとうございました。

名古屋市立平針中学校女子主将　藤原 真由子

女子初の春夏連覇、そして何より男女揃って優勝できたことを、本当にうれしく思っています。

しかし、私にはそんなすごいことをやり遂げたという達成感はほとんどありません。春の全国大会で優勝した後、目標とするチームがなくなり、練習にも身が入らなくなりました。そんな中で熊谷先生は、練習や練習試合などで内容が伴わなかったり、集中していないと、よく私たちをよく走らせました。私たちは正直、その時は自分たちが楽をすることばかり考えていて、走らされる度に不満が募っていました。今考えると、先生は、夏でも２試合走りきれるだけのスタミナをつけようとしてくださったのだと思います。

もし、私たちが先生のおっしゃることを素直に受け入れていたなら、もっと強靭なスタミナがついていたかもしれません。また、身が入っていない時は、普段なら圧倒してしまうようなチームに負けてしまうこともありました。負けて悔しいという思いと、全国優勝を経験したチームが身の入った試合ひとつできない、という情けない思いが込み上げてきました。本当にこんな気持ちで練習していていいのか、と考えた時に、集中するときは集中してやろうと決めました。だから、自分たちなりに、パスや速攻、ディフェンスなどの精度をより高めていけるような練習をしてきました。その結果、パスミスなどの単純なミスが減り、ディフェンスがよくなると、自然に速攻での得点も増えてきました。私たちはいつも先生に「基本をしっかりやれ」と言われてきました。もっといろいろなプレーを練習したかったけれど、どんなプレーも基本がしっかりできていなければ成功しません。そういう意味で、先生には、本当に感謝しています。

また、家族や大会を運営された方々などたくさんの人たちの支えがあったからこそ、優勝できたのだと思います。と同時に３年間一緒にハンドボールをやってきたみんなにも感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

最後に、女子初の二冠を取らせていただいたので、気持ちを新たにして、女子初の三冠を目指して今後もがんばっていきたいと思います。


3点共　写真提供：スポーツイベント社

戦　評

【男子】

▼準決勝

平針中　34（18 − 14、16 − 13）27　日吉中

立ち上がり、日吉がエース峰のミドルシュートで先行するが、すかさず平針は小林のミドルシュートで同点とする。日吉は、開始10分間ほど、平針の高いディフェンスを攻めあぐねる。その間に、平針は着実に得点を重ねていき、18分には平針が15対7と大差をつける。しかし、ここから日吉がエース峰と山口を中心に猛反撃を仕掛け、前半を平針の4点差リードで折り返す。

後半も日吉のペースで進み、6分には1点差まで追いすがるが、平針・小林のミドルシュートが要所で効果的に決まり、日吉をリズムに乗せず、最後は34対27で平針が勝ち、決勝に進んだ。敗れたとはいえ、日吉は主将・峰を中心としたまとまりのあるチームで、決してあきらめることなく、最後まで中学生らしく、粘り強く戦った姿勢は好感がもてた。

けやき台　31（11 − 16、20 − 10）26　大体大附

大体大附のスローオフで試合が開始され、お互い運動量の多いDF、OFが続いたが、2分10秒から大体大附2番のロングシュートが2本決まり、パスカットから速攻で3連取。けやき台は、大体大附2番にマンツーマンDFをしき、一進一退の攻防となり、8分過ぎから両チームGKの好守もあり、4対4となり、大体大附は6−0から3−2−1の高いプレスDFからカットを狙い、4連続得点で9対4とした。以後、点の取り合いとなり、16対11の5点差で大体大附リードで前半終了。

後半に入って、けやき台は6−0DFと大体大附2番のマンツーマンDFをうまく使い分け、大体大附のパスミス、シュートミスを誘い、速攻で全員よく走り加点した。15分50秒には24対23と逆転。大体大附は完全に攻撃リズムを崩し、攻撃のミスからのけやき台の全員速攻を守りきれずに失点し、そのまま逃げ切られた。結局31対26でけやき台の逆転勝利となった。

▼決勝

平針中　30（12 − 9、18 − 8）17　けやき台

準決勝で、春の大会を制した大体大附中に大接戦の末逆転勝利したけやき台中は、その勢いのままに開始早々から2番のステップシュート、また堅いディフェンスからの速攻、さらに2番、3番のミドルシュートなどが立て続けに決まり、7分には7対2と大きくリードした。けやき台中のワンサイドゲームになるかと思われたが、平針中の脚が動き始め、またキーパーの好守もあり、13分から13番、14番、15番

の速攻もさえ、さらにサイドからのシュートも決まってジリジリと追い上げた。けやき台中は約 16 分間単発なシュートが目立ち、僅か 1 点にとどまり、平針中が逆に 12 対 9 とリードして前半を終わった。

後半開始直後、けやき台中の 3 番が速攻を決め、接戦に持ち込むかに見えたが、平針中は前半の勢いが止まらず、堅いディフェンスからの速攻を続けて決め、その後も 4 番、14 番、13 番と速攻、ミドルシュート、ポストなどのすばやく多彩な攻撃を繰り返し展開して、着実に加点していった。けやき台中はあせりからパスミス、キャッチミス、そしてシュートミスを繰り返した。22 分、23 分に 5 番が強烈なミドルシュートを決め、追撃態勢に入ったが、すでに遅かった。

試合前の予想を覆すような試合内容となった。最後まで自チームのカラーを出し続けた平針中を讃えたい。

【女子】

▼準決勝

西條中　19（11 − 6、8 − 12）18　香川第一中

前半、両チームとも固さの見られるスタートであったが、西條中が 5 番奥田のカットインなどで 3 連続得点するも、香川第一中 GK 馬場の好セーブから速攻を連続して得点し、12 分には 5 対 3 とリードする。しかし、守りに荒さが見られ退場者が出たのをきっかけにリズムを取り戻した西條中が得点を重ね、5 点リードし前半終了。

後半は香川第一中の 2 番谷が強気なプレーで得点し、西條中に食い下がる。西條中は 3 番北原のカットインなどで追撃をかわし、終了 1 分前に 1 点差まで追いつめた香川第一中を振り切り、19 対 18 で逃げ切った。

平針中　23（9 − 4、14 − 10）14　三郷北中

三郷北中のスローオフでゲーム開始。前半 2 分までは互いに固さが目立ち、三郷北中 4 番海老原のロングシユート、平針中 5 番杉浦のサイドシュートにより得点が動き始める。4 分、三郷北中のシュート、パスミスから、平針中 5 番杉浦、6 番坂口の速攻が決まる。中盤、三郷北中 3 番真方、4 番海老原のボール回しの展開で攻撃をしかけるが、平針中のかたい DF を崩しきれず、前半 9 対 4 で折り返した。

後半、試合開始、平針中 7 番千葉のサイドシュートが決まったが、直後に、三郷北中の 4 番海老原のロングシュートが決まり、その後、10 分間、速攻、セット DF で、互いに得点を重ねる一進一退の攻防戦となった。しかし、11 分に平針中 7 番千葉のステップシュートが決まり、平針中ペースとなり、三郷北中の反撃も及ばず、最終的には 23 対 14 で平針中が決勝に進んだ。

▼決勝

平針中　28（14 − 5、14 − 8）13　西條中

8 番を中心としたスピードとパワーのあるセットオフェンスが特徴の平針中学校と、3 番、5 番の長身選手を中心とした粘り強いセットオフェンスが特徴の西條中学校の対戦となった決勝戦。お互いに相手の攻撃を如何に抑えるかがポイントとなった。

前半立ち上がりはお互いに動きが硬く、パスカットの連続やシュートミスが目立った。5 分過ぎから平針 8 番の連続シュートが決まって、平針は徐々にペースをつかみ始めた。ポストやサイドシュートが決まる平針に対して、西條は動きにキレがなく、得意のロングシュート、ポストシュートが決まらないためなかなかペースがつかめなかった。10 分過ぎから平針の攻撃は力強くなり、多彩なシュートで得点を伸ばした。西條は平針の堅いディフェンスを崩せず、14 対 5 で前半を終えた。

後半もペースは変わらず、西條が懸命に攻めるが、シュートミスもあり、結局平針のディフェンスを崩すことができなかった。平針は最後まで力強いプレーが衰えず、28 対 13 と点差が開いて試合が終了した。平針の攻守にわたる力強さが目立った決勝であった。

第15回
ジャパンオープンハンドボールトーナメント

《最終順位》
【男子】優勝：Honda（三重県）　2位：長崎社中（長崎県）　3位：HC山口（開催地山口県）　4位：FOG（千葉県）
【女子】優勝：香川銀行T・H（香川県）　2位：徳山クラブ（開催地山口県）　3位：HC高山（岐阜県）　4位：京都クラブ（京都府）

第15回ジャパンオープンハンドボールトーナメントを振り返って

山口県ハンドボール協会理事長　加藤　晃

いよいよ来年に迫った「おいでませ！山口国体」のリハーサル大会として、第15回ジャパンオープンハンドボールトーナメントを、8月13日（金）から17日（火）まで、国体の会場地となる周南市において開催いたしました。国体で使用するキリンビバレッジ周南総合スポーツセンター、周南市鹿野総合体育館、周南市熊毛体育センターの3会場のうち、今回はメイン会場となる周南総合スポーツセンターと鹿野総合体育館の2会場で男子32チーム、女子16チームの熱戦が繰り広げられました。

今大会は国体のリハーサル大会ということで、準備・運営には山口国体周南市実行委員会の全面的なバックアップをいただき、また大会運営ボランティアの皆様にもさまざまな面で御協力をいただいたお陰で、本協会では限られた人数のスタッフを競技運営に専念させることができ、何とか無事に大会を終えることができました。改めて、周南市実行委員会、大会運営ボランティアの皆様に心よりお礼申し上げます。

さて、大会は、13日に山口県周南総合庁舎において和やかな雰囲気の中行われた開会式で幕を開け、翌14日から競技が始まりました。競技初日は冷房の効いたメイン会場3面と、周南市の中心部から北へ約30km、中国山地の麓にある冷房設備のない鹿野総合体育館1面の計4面で男女の1回戦計24試合が行われました。特に酷暑の中、鹿野コートで文字どおりの熱戦を展開してくださった女子12チームの皆様には、カーテン・窓の全面開放にも御理解・御協力をいただき本当にありがとうございました。お陰様で、最終ゲームの終了時間も予定より僅かな遅れですみ、その後のコートの撤収も予定どおり終えることができ、運営サイドとしては大いに助かりました。

大会2日目からは、全試合がメイン会場で行われ、選手役員とも快適な環境の中でゲームができたのではないかと思います。その中で、ともに社会人連盟のトップチームともいうべき男子のHondaと女子の香川銀行T・Hが、終始安定した試合運びで実力の違いを見せつけ、優勝の栄誉に輝きました。初優勝のHonda、4連覇を達成した香川銀行T・Hの両チームに心から敬意を表したいと思います。また、ベスト4には男子のFOG（千葉県）をはじめ地元での国体開催を控えた国体強化チームが今年も顔を揃えました。勤務等の都合でベストメンバーが揃わないというチームもありましたが、さすがにどのチームも各地区の厳しい予選を勝ち抜いてきただけに、連日の猛暑にもかかわらず素晴らしいパフォーマンスを見せてくださり、コート係を務めた中学生やオフィシャル補助員を務めた高校生もそのプレーに大いに刺激を受けたようです。そうした中で地元チームも、男子のHC山口が第3位、女子の徳山クラブが準優勝と、地元の大声援に応える形で予想以上の好成績を収めることができました。来年の山口国体での上位入賞に向けて大いに弾みがつくと同時に、そのための課題も確認することができた収穫の多いプレ大会となりました。



今大会の開催に向けてできる限りの準備をしてきたつもりでしたが、5日間の大会を終えてみると、競技運営、その他大会運営の面でさまざまな課題が見つかりました。これからの1年間、周南市実行委員会と一層の連携を図りながら、諸課題の改善・解決に努め、来年の山口国体では万全の態勢で皆様をお迎えしたいと心を新たにしたところです。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり御支援・御協力をいただいた日本協会、審判員、競技役員、競技補助員、協賛各社、地元ファンの皆様、そして参加チームの皆様に心よりお礼申し上げますとともに、来年の山口国体の成功に向けて一層の御支援・御協力をお願い申し上げます。「おいでませ！山口国体」への皆様のお越しを心よりお待ち申し上げております。



男子 優勝チームのコメント：Honda

Honda ハンドボール部

今回初参戦となったジャパンオープン。この大会で優勝し、年末に行われる『全日本総合選手権大会』への出場権を得る為、県予選では、昨年まで今大会２連覇を果たしていたOBチームでもあります『三重ホンダクラブ』との１点差の激闘を制し、出場権を獲得しました。その勢いで、東海予選でも危なげなく１位通過で本選への出場権を獲得しました。

三重県代表としては、三連覇がかかった今大会。チームは違えど、OBと一緒にプレーしていた選手もいる中で、目標は『優勝』に置き、若干のプレッシャーを感じながらの大会入りでした。

本戦では１回戦、２回戦とも立上がり自分たちのペースで試合運びが出来ず苦労しました。今年年初から取り組んでいる、アタッキングなDFを持って臨みましたが、個々の動きの連動が無く、チームとしてのDFが出来ない中、その都度チーム内で修正を行い、選手自らアイデアを出しながらなんとか勝ち進む事が出来ました。

今大会最大の山となったのは、準々決勝でのホンダ熊本戦でした。

前半から優勢に進みましたが、今のHondaにとっては、熊本は日本リーグでも活躍していた経験豊富な選手がいるチーム。徐々に追いつかれ、Hondaのミスのうちに、5点差をつけられ時間と点差が切迫してきました。しかし練習量では分がある分、あわてることなく、DF隊形を変え、運動量を生かし戦いました。そして、コート上でプレーしている選手、ベンチから必死に声を掛ける監督・選手の想いが一つとなり逆転勝利を勝ち取りました。

準決勝は、地元国体強化チームでもあるHC山口。DF隊形を一線にし、しっかり守って速攻を狙う戦略で進めました。結果、元全日本の東選手には若干得点を取られましたが、キチッと狙い通りの戦いが出来、決勝へ駒を進めました。決勝は、これも３年後の国体を迎える佐賀代表　長崎社中でしたが、相手も連戦の疲れか、接戦はするものの、余裕を持ちながら勝利し、目標にしていた『優勝』そして、全日本総合選手権大会への出場権を獲得することが出来ました。

試合に出る選手と、出ない選手がいる中で、コート・ベンチ一丸となれるよう、出ていない選手も、大会中も別でトレ



ーニングを行い進めていけたことは、短期決戦であるこの大会には、効果の出たところだと思います。

この大会の経験を糧にこれから全日本総合選手権大会に向けて更なる進化を目指し、チーム一丸となり頑張ってまいります。そして目標のベスト 4 進出を目指します。

最後になりますが、夏合宿で練習試合をさせていただいた、各大学チーム関係者の方々と、審判やその周りでのサポートいただいた方に、誌面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

女子 優勝チームのコメント：香川銀行T・H

香川銀行ハンドボール部キャプテン　盛山 美沙

大会史上初となる 4 連覇をかけた今年のジャパンオープンハンドボールトーナメントでは、7 月に開催された実業団選手権でチーム初となる決勝トーナメントに勝ち進んだことでの自信、実業団としての誇りと必ず 4 連覇を達成させなければならないというプレッシャーを抱えながら臨んだ大会でした。

今大会は、亀井監督・名渕選手が国際試合で不在の中、日々の練習をコーチと選手の１４名で一丸となって厳しい練習を行ってきました。試合で「DF から速攻」を今まで以上に意識していくよう例年になく走りこみを取り入れ、１人１人が体力・精神力ともに大きく成長することができ、その成果が得点として現れました。反面、大会を通じて更に不足していると思う課題が明確となりました。次に開催される国民体育大会や全日本総合選手権に向けて、今まで以上の結果を残せるよう日々切磋琢磨し、チームの成長に繋げていきたいと思います。

また試合会場には、遠方から多くの方々が応援に来て下さいました。決勝戦、地元徳山クラブとの試合では、ホームゲームのような心強い声援を頂き、私達は本当に多くの方に支えられて勝ちとった優勝だったと実感しました。

最後になりましたが、この大会で 4 連覇できたことは、香川銀行をはじめ、香川県ハンドボール協会、OB・OG の方々、両親、チームを応援して下さっている大勢の皆様のお陰だと心から感謝申し上げます。

これからも成長し続ける香川銀行チームハンドをよろしくお願いいたします。



【男子】

▼3位決定戦

ＨＣ山口　24（14－8、10－11）19　ＦＯＧ

HC 山口のスローオフで試合開始。先制点は FOG 2番小川のポストシユート。対する HC 山口はすぐに3番前永のカットインで応酬。FOG は高いディフェンスからの速攻、HC 山口はフォーメションからの攻撃が持ち味。お互い探りあいの展開が続き 12 分過ぎで3対3。中盤、HC 山口は 11 番東の速攻からの得点で2点差。しかし、20 分過ぎに FOG はキーパー杉浦の好セーブ、6番柴田のサイドシユートなどで再び8対8の同点に。終盤、ディフェンスからリズムをつくった HC 山口が8番彌本のサイドシュート、東の連続得点などで抜け出し 14 対8とリードして折り返した。

後半、FOG は速い展開から逆転を狙うが、HC 山口のキーパー重村の好セーブなどに阻まれ、思うように得点を重ねられない。一方、HC 山口は FOG の追い上げを巧みにかわし、19 分過ぎ再び6点差のリードを保つ。焦りの出てきた FOG の隙をつき、HC 山口は前永のカットインなどで得点する。終盤、FOG は7番杉浦の連続得点などで気迫の追い上げを見せるが、HC 山口が地元の声援に後押しされ、24 対 19 で逃げ切り、3位となった。

▼決勝

Honda　26（15 － 10、11 － 12）22　長崎社中

どちらも初優勝を目指す。Honda のスローオフで開始。長崎社中は高いディフェンスでパスカットを狙う。一方、体格で勝る Honda は5番河瀬のポストプレーを軸に攻撃を組み立てていく。先制点は Honda 河瀬のポストシュート。すぐに長崎社中は 13 番岩尾の素早いステップシュートで応戦。Honda は序盤、河瀬にボール集め得点を重ねる。長崎社中は7番岩尾の3連続得点で 15 分過ぎ5対5の同点とする。中盤 Honda は 10 番青山のポストシュート、9番高見のサイドシュートなどで得点。しかし、長崎社中は積極的な出足で 11 番三宅のミドル、8番竹田の速攻と 23 分過ぎには 10 対9と1点リードを奪う。たまらず Honda はタイムアウト。ここから流れをつかんだ Honda が 13 番瀬元のシュートもあり、一気に6得点して 15 対 10 で折り返した。

後半、流れをつかんだ Honda が優勢に試合を展開。長崎社中は三宅、岩尾を軸に得点を重ねるが、Honda は8番伊藤、11 番野島の得点、キーパー大島の好セーブなどで点差を詰めさせない。長崎社中は最後まで気迫あふれるプレイを展開したが及ばず、Honda が 26 対 22 で試合を制し、初優勝した。

【女子】

▼3位決定戦

ＨＣ高山　27（12 － 11、15 － 7）18　京都クラブ

1分過ぎに、HC 高山 11 番柴田の速攻が初得点。HC 高山は、5分半ばに3対1でリードしてから後、京都クラブの粘り強いディフェンスでセット攻撃の決め手を欠き、速攻も京都クラブ1番の GK 深井の好セーブに阻まれ、得点できない時間が 13 分間続いた。その間、京都クラブは8番小西の速攻、15 番山村の切り込みなどで7連続得点。5点のリードを奪われた 18 分過ぎに、HC 高山はタイムアウトを取る。これが功を奏して流れが変わり、HC 高山が4連続得点で1点差まで詰め寄ると、京都クラブもここで、タイムアウトを取得。その後は、HC 高山が 11 番柴田、5番小田の速攻、2番立野の切り込みなどで5得点、京都クラブは、5番上村の速攻、10 番山本のポストなどで3得点し、12 対 11、HC 高山1点リードで前半を終わった。

後半、立ち上がりの 11 分間は、京都クラブに少し疲れが見られ、HC 高山は、11 番柴田を中心とした怒涛のような速攻で、7連続得点でリードを広げる。8点差となったところで、京都クラブはタイムアウトをとる。京都クラブは、10 番山本のポスト、8番小西のサイド攻撃による連続得点で勢いを取り戻すかに見えたが、HC 高山も速攻による得点で主導権を渡さず。その後、京都クラブは、11 番山本の速攻などで得点するも、多彩に得点する HC 高山に逆に点差を広げられ、27 対 18 で HC 高山の勝利に終わった。

▼決勝

香川銀行Ｔ・Ｈ　32（19- 5、13 － 10）15　徳山クラブ

徳山クラブのスローオフで試合開始。徳山クラブは、8番内富、7番小松、5番新宮のセンタースリーでセットプレーを展開しようとするも、香川銀行Ｔ・Ｈの 45°にプレス気味につくディフェンスに阻まれ、香川銀行Ｔ・Ｈはカットからの速攻で得点。徳山クラブの6番谷口の長身を生かしたポストプレーも香川銀行Ｔ・Ｈの粘り強いディフェンスでパスがなかなか通らず決定力に欠く。15 分までに、香川銀行Ｔ・Ｈは3番塩田の速攻を中心に得点を重ね、10 点差をつける。15 分以後も、徳山クラブは、6番谷口やサイドから流れてきた 10 番藤長のポストプレーで得点するも、香川銀行Ｔ・Ｈの速攻の勢いは止まらず、3番塩田、10 番西舘などを中心に着実に得点し、19 対5、香川銀行Ｔ・Ｈの 14 点リードで前半を終了した。

後半、徳山クラブは、開始1分に 10 番藤長のポストシュートで得点すると、9分までは、1番の GK 寺崎の好セーブもあり、当たりを強くしたディフェンスで香川銀行Ｔ・Ｈに得点させず、さらに2点を追加。しかし、9分過ぎからは、香川銀行Ｔ・Ｈも速攻による4連続得点で息を吹き返す。その後、徳山クラブは、待望の8番内富のロングシュートが決まり、流れをつかむかに見えたが、香川銀行Ｔ・Ｈも要所で速攻を決め追撃を許さず。後半は、互角の戦いであったが、3番塩田の大量得点もあり、香川銀行Ｔ・Ｈが 17 点差をつけ圧勝した。

第37回全国高等専門学校ハンドボール

最終順位：優勝：金沢高専　準優勝：一関高専　3位：熊本高専八代・北九州高専

第45回全国高専体育大会・第37回全国高専ハンドボール選手権大会総評

大会副委員長　瀧本 明弘



第45回全国高専体育大会・第37回全国高専ハンドボール選手権大会は、石川県金沢市の、「いしかわ総合スポーツセンター」に於いて開催された。ここは、一昨年全日本総合選手権大会が、又昨年は全日本学生選手権大会が開催された会場である。その会場で今大会を開催できたことは、大変感慨深いものがある。このスポーツセンターは、コートを4面取ることが出来るため、試合前日の公式練習には、各チームに、1コートを1時間半に渡って使用していただくことが出来た。また、観覧席に於いて一度体育館シューズに履き替えれば、館内全て履き替える必要が無いことなど、大変良い条件で大会を運営することが出来た。さらに、選手のホテルからの、送迎用のシャトルバスの運行や、整形外科医とトレーナーの常駐など、選手のことを考えぬいた運営が出来たと考えられる。

今大会は、高専ハンドボールの日本一を決めることはもちろんのこと、大会を通じて、選手、役員、チームの交流を深めるという目的もある。そのために、大会初めての試みとして記念Tシャツの販売や、最終日には協賛企業からの提供品の抽選会も行った。

試合は、予選リーグから白熱した熱戦が繰り返され、関係者はもとより、初めてみた人達の中にも、ハンドボールファンが増えたことは間違いないと考えられる。

決勝は、東北地区代表で岩手県の一関高専と、地元北陸地区代表で石川県の金沢高専の組合せになった。立ち上がりから、一進一退の展開から最後はGKの好セーブで金沢高専が逃げ切り、初出場で初優勝という全国高専大会史上初めてという快挙を成し遂げた。

大会に先立ち、8月17日に挙行された開会式では、大会委員長の金沢高専山田校長の挨拶、日本ハンドボール協会川上専務理事のご挨拶に続き、石川県ハンドボール協会村上副会長より歓迎の挨拶があり、主管校の主将である古谷尚大君の選手宣誓によって熱戦の火蓋が切られた。又8月19日(木)の閉会式・表彰式は、厳かな中にも、戦い終わった選手達の安堵感と、さわやかな気持ちが満ち溢れたものとなった。

猛暑の中、このように本大会は様々な人たちのおかげを持って、無事終了することが出来た。日本ハンドボール協会及び石川県ハンドボール協会、またお手伝いいただいた地元の高校生に心よりお礼を申し上げます。最後になりましたが、学生たちのために、ご後援、ご協賛を頂いた各団体及び各企業にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

優勝チームの声：金沢高等専門学校

金沢高専監督　山口 真史

金沢高専ハンドボール部は5年前、現5年生が創部しました。創部と同時に掲げた目標が『全国高専大会優勝』でした。

初心者の多い中始まった活動はなかなか勝つことができませんでした。初の公式戦では50点以上の失点に一桁の得点、散々なものでした。しかし、挫折することなく努力を重ね、年々部員も増えていき、徐々にいい試合ができるようになっていきました。



5年生最後の年、今大会に対する思い入れはとても強いものを感じました。5年前に掲げた目標を必ず成し遂げる。5年生だけでなくチーム全員が強く望みました。リーグ戦から全4試合、まさに気持ちで掴んだ勝利でした。粘り強いディフェンス、叫ぶような声の掛け合い、選手・ベンチ・応援席が完全に一体化していることが感じられました。優勝の瞬間、すごい感動を感じました。つらい練習を重ねてきたことが報われた瞬間。5年前に掲げた目標が達成された瞬間。

彼らの表情を見たとき、素晴らしいものをプレゼントしてもらった気分でした。チーム全員に「ありがとう。」と言いたいです。

また、今大会は金沢高専が主管校でした。運営を務めてくださった教員、審判や役員や協会の方々、たくさんの方の協力で今大会を成功で終わることができました、本当にありがとうございました。

選手権大会



金沢高専主将　古谷尚大

金沢高専ハンドボール部は私が入学時に創部し活動してきました。総監督である瀧本明弘先生から創部時に「５年後に全国優勝するぞ」という言葉を頂きました。

創部したての頃は負け試合は当たり前の弱小チームでしたが、瀧本先生は見捨てず励まし続けてくれました。年を重ねるごとに部員が次第に増えて賑やかになり、３年時には山口真史先生が監督として赴任され、県外遠征や練習試合の機会が多くなりました。その結果、新しい攻守が生み出され、よりチームが固められました。これを聞くと練習が厳しいイメージが湧くと思いますが、「練習を楽しむ」ということを主に、先輩後輩という形ではなく、１つの家族として全員がそれぞれを信頼しあい活動しました。

充実した練習を続け、これ程１つの目標に向かって仲間と共に切磋琢磨しあい励んだことは初めてでした。そして創部メンバーの最後の年に初出場初優勝を果たすことができました。初出場初優勝は私たちだけの力ではなく、練習を共にした仲間や保護者の方々、並びにご支援下さった人たちのお力添えが大きかったと思っています。試合終了のブザーが鳴り響いたときの周りからの歓声は今でも忘れられません。勝利することができた喜びが溢れ出る反面、これで自分のハンドボールも終わってしまったのだなと寂しくも思いました。

１つの目標に向かって全力で挑戦することで、どのような結果で終わったとしても終わった時に達成感が残ると思います。多くの方々にハンドボールを続けたことでの喜びや達成感を味わってほしいです。

戦　評

〈準決勝〉

一関高専　30（11 － 12、19 － 14）26　北九州高専

キーパー１番の好セーブで流れを掴んだ北九州の連取でゲームがスタート。負けじと一関もキーパーを中心とした堅守から速攻で追いつく。その後も、両チームとも、それぞれの持ち味を生かし、北九州は 10 番の切れのあるフェイントからのミドルシュートで加点し、一方で、一関はバックプレーヤー陣のロングシュートやクイックスタートで食らいつき、前半を 12 対 11 と北九州が一点リードして折り返す。

後半は、北九州が５番のサイドシュートで加点し、点差を広げようとするが、一関も速い球回しからの崩しで追い上げ、逆転するなど、一点を争う激しい攻防の展開となる。ここで、一関がアグレッシブなディフェンスから速攻をしかけ２点リード。たまらず北九州がタイムアウトをとり、流れを変えようとするが、勢いにのった一関は、その後もリードを広げ、追いすがる北九州を振り切った。

最後まで両チームとも足が止まらず、スピーディーな展開で、場内をひきつける好ゲームであった。

金沢高専　22（11 － 7、11 － 5）12　熊本高専

両校ともに緊張から、立ち上がりはスローペースでゲームが進む中、ゴールキーパーを中心に両校のディフェンスも堅く、なかなか得点できずに中盤をむかえる。次第に硬さもとれたコンビネーションが取れ始めた金沢が藤田、林の両選手が加点し、優位にゲームを展開し前半を折り返す。

後半は立ち上がりから金沢の一方的な展開となり、山下の速攻などで確実に加点していく中、熊本も上野、松本の両エースで応戦するも勢いの出た金沢の攻撃に防戦一方となり、この勢いを止められずのびのびとゲームを展開した金沢の大勝に終わった。

〈決勝〉

金沢高専　22（10 － 8、12 － 12）20　一関高専

決勝戦特有の緊張の中、一関のスローオフでゲーム開始。金沢が 15 番のシュートで先制し、試合が徐々に動き出した。開始５分で３対１と金沢がリードするも、一関もロングシュートを立て続けに決め、同点とする。その後、金沢が 15 番のポストプレーで連取すると、すかさず一関も得点を取り返し、１点を争う白熱した展開となる。中盤以降、金沢がキーパーの好セーブから速攻をつなぎ、７対４と３点のリードを奪うが、一関も必死に食らいつき、10 対８と金沢が２点リードで前半を折り返す。

後半、一関の速攻が光り、開始早々、同点に追いつく。その後、両校とも持ち味を生かした攻撃で、一関はロングシュート、金沢はサイドシュートを中心に得点を重ねていき、気の抜けないスリリングな展開が続く。残り 10 分、一関はディフェンス形態を変え、追い上げるが、金沢のキーパーのファインセーブで３点差を堅守。残り２分、金沢の１名退場も、一関の猛攻を１点に抑え、最後まで集中力の切れなかった金沢が、初出場でありながら、地元で初の栄冠を勝ち取った。

第30回全国クラブハンドボール選手権大会 西 地区大会

大会を振り返って

和歌山県ハンドボール協会事務局　山本 隆重

【男子】優勝：愛知教員　2位：HC 大分　3位：HC 神戸
【女子】優勝：NYHC　2位：大阪教員　3位：ナデシコクラブ

暑い、暑いと言われた今年の夏でしたが、今大会はそんな夏を締めくくるにふさわしい、熱い大会になったと思います。

第30回全国クラブハンドボール選手権西地区大会は、和歌山市にあります和歌山ビッグホエールを競技会場に、本年9月18日（土）に開会式等を、19日（日）と20日（月・祝）の2日間にわたって競技を行いました。今大会は同時にB級審判員の審査会も行いましたので、試合に参加される方はもちろん、審判員の皆様も、また大会運営に携わったものも含めて、緊張感のある雰囲気の中で進められました。

西日本各地区から集まった社会人クラブチーム（男子12チーム、女子8チーム）が、2日間を通じて熱戦を繰り広げました。9月も折り返しを過ぎているものの、まだまだ残暑の厳しい中で、選手の流す汗はここ和歌山の地で輝いていたように思えました。激戦を勝ち上がってきたチーム同士となった決勝戦では、前半リードを許していた愛知教員が、残り20秒でHC大分を逆転し男子で優勝を、女子はNYHC（長崎県）が、大阪教員から奪った出だしのリードを守って制し優勝カップを手にしました。

ここ、和歌山県は、本州最南端の潮岬を有し、また世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産である高野・熊野をはじめ、南紀白浜や醤油発祥の地湯浅等の観光資源がたくさんあります。さらには、みかんや柿等の果物、梅干し、海産物などの名産品も多くある地でもあります。このような地に、皆様をお迎えして大会を行えたことを、私たち和歌山県ハンドボール協会一同、心より感謝しております。

2015年には、本県で国民体育大会を行うことになっています。今大会を契機に、この「紀の国わかやま国体」を成功させることができるよう、一丸となって取り組んでいくところです。再び全国の皆様を和歌山県にお迎えできる日を、心よりお待ちしています。

最後になりましたが、本大会開催にあたりまして、日本ハンドボール協会の皆様、前回開催の愛媛県ハンドボール協会の皆様、御協賛いただきました皆様をはじめ、多くの方々の御協力によりまして無事大会を終えることができましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。また、B級審判審査の審査員の皆様方、受験審判員の皆様におかれましては、大会運営にあたり御協力くださいまして、誠にありがとうございました。

《戦評》

【男子決勝】

愛知教員（愛知県）　19（8－13、11－5）18　**HC大分**（大分県）

男子決勝は、安定した試合運びで勝ち上がってきた愛知教員と、準決勝を前半ビハインドから逆転したHC大分の対戦となった。試合は、HC大分のスローオフで始まった。開始3分まで膠着状態が続くが、HC大分3番品矢のミドルシュートを皮切りに、HC大分が速攻等で得点を重ね、11分までに7対2とHC大分が主導権を握る展開となった。その後、愛知教員16番吉田のシュートなどで愛知教員も食らいつくが、前半はそのまま13対8でHC大分が5点差のまま終了した。しかし、後半が始まると、今度は愛知教員が4連続得点をあげて一気に追い上げ、後半12分、10番伊藤のポストシュートで同点に追いつく。両者、一進一退の攻防の中、18対16、HC大分2点リードとなったところで、愛知教員がタイムアウト。タイムアウト明けには、3番杉本がきっちり決め、後半23分には再度同点に追いつく。残り1分を切ったところで、HC大分はタイムアウトをとり、着実にチャンスをものにしたかったところだが、逆に残り20秒、愛知教員10番伊藤のポストシュートで、愛知教員はついに逆転。随所にGKのファインセーブも見られた、決勝戦にふさわしい接戦は、愛知教員が制し、優勝を決めた。

【女子決勝】

NYHC（長崎県）　20（11－6、9－9）15　**大阪教員**（大阪府）

女子決勝は、接戦をものにして勝ち上がってきたNYHCと、近畿ブロック1位でここまで堅調に勝ち上がってきた大阪教員の組合せとなった。立ち上がり、NYHCは3番辻の速攻、14番江口のポストシュートで2点を連続して奪う。対する大阪教員は、9番木下のサイドからのループシュートで応戦するが、その後はNYHCの一方的な展開で、前半10分には7対1となる。後半12分過ぎからは両者ともに点を取り合い、前半は11対6、NYHCの5点リードで折り返す。後半開始早々、大阪教員は13番小猿のクロスからのミドルシュートで1点を奪い4点差とするも、NYHCは14番江口の3連取で引き離しにかかる。対する大阪教員は6番陶山がパスカットからの速攻で1点を取り返すも、NYHC13番竹上がさらに奪い返すなど、その後は取れば取り返される状況で試合は推移していった。試合終了間際には、大阪教員9番木下がサイドシュートを決めるが、万事休す。NYHCは、前半の出足に稼いだ得点差を守り切り、追いすがる大阪教員を振り切って、見事優勝カップを手にした。

■男子優勝チーム

愛知教員　吉田 太郎

はじめに、第30回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会を開催にあたり、ご尽力いただきました関係各位、地元和歌山県協会のみなさま、ならびに地元高校生の皆様に改めて感謝申し上げます。

この度、第30回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会において、10年ぶり2回目の優勝を果たすことがで



きました。

私たち愛知教員は、小・中・高校の教員を中心にしたチームです。大会に臨むにあたり、多くの選手が自分のチームの指導や大会等が入り、満足に練習を行うことができませんでした。また、チームの平均年齢が上がり、今の点を取り合う試合展開に不安を残しての大会でした。

予選リーグ１試合目の下松クラブでは序盤リードを許し、焦りも出ましたが、ディフェンスを立て直し競り勝つことができました。２試合目の粉河送球部とは、ディフェンスが機能し、守って速攻という形ができ、勝つことができました。準決勝のHC神戸は、若く機動力があり、３－２－１ディフェンスからの速攻が早くとても強いチームでしたが、ロースコアの展開に持ち込めば勝機があると話し、ディフェンスを頑張り、競り合い勝つことができました。決勝のHC大分は前年度の国体チームで、とてもバランスの取れたチームでした。前半は相手のリスタートなどのスピーディーなハンドボールに対応できず、５点のビハインドを負う展開でした。ハーフタイムで、残り25分間後悔しないようにできることを一生懸命やろうと話し後半に臨みました。HC大分の苦しいチーム状況にも助けられ、点差を徐々に縮めることができ、残り18秒で逆転に成功し優勝することができました。

この愛知教員というチームでハンドボールができ、この仲間と出会い、優勝できたことは、かけがえのない思い出になりました。最後になりましたが、いろいろな場面で支えてくださった、名古屋市ハンドボール協会、愛知県ハンドボール協会の皆様、本当にありがとうございました。

■女子優勝チーム

NYHC　江口 美穂



驚きと喜び。決勝戦が終わったときの正直な気持ちです。

この大会は私たちにとってチャレンジでした。

NYHCは長崎ヤングハンドボールクラブのことです。2014年『長崎がんばらんば国体』に向け今年度作ったチームで、このチームを母体として、強化していこうと始動したばかりです。まだメンバーも少なく、チーム力も高いとは言えません。練習では、うまくいかずに悩んで反省して、皆で話し合っての繰り返しでした。しかし、「一つでも多く勝ち進みたい」という気持ちはひとつで、今夏は練習を重ねてきました。初めて出場する西日本大会、あまりする機会のない関西のチームとの試合、楽しみな反面、緊張して試合に臨みました。

１回戦・２回戦ともに、得点してもミスをして返され、自分達で苦しいゲームにしてしまいました。決勝戦では、５点程リードはしていましたが、大阪教員チームはミスも少なく、全く油断できませんでした。しかし、試合ごとにチームがまとまり、決勝戦では一番楽しく、いいゲームができたと思います。必死で戦い、試合が終わった時は「勝てた」という驚きと喜びは大きいものでした。

チームとしてはこの大会がいいスタートとなりました。この西日本大会で私たちがつかんだものは、次につながる大切なものでした。これからさらに経験を積んでいって、土台作りをしっかりやっていかなければならないと考えます。

この結果は、選手だけでは得られなかったと思います。国体から引き続き、快く監督を引き受けて下さった石崎先生、久松コーチのおかげで試合に集中でき、安心して戦うことができました。また、練習を一緒にして下さる先輩方、応援して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

第12回
全日本ビーチハンドボール選手権大会



【最終順位】
［男子］優勝：日本体育大学男子　準優勝：FST　3位：HC 大阪、東海 Weeds!
［女子］優勝：あぶらおおめ　準優勝：シャイン　3位：風見鶏クラブ

第12回全日本ビーチハンドボール選手権大会を振り返って

兵庫県ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会委員長　大原 康昇

去る、8月28日（土）・29日（日）に兵庫県・神戸市アジュール舞子で第12回全日本ビーチハンドボール選手権大会が開催されました。神戸ではこの大会で3回目となりますが、大会はマスコミ報道等で最高に盛り上がりました。神戸新聞による「ビーチハンドの魅力」から始まり、試合展望、初日の大会風景及び結果、また、大会に先立ち26日（木）の初心者を含めた技術講習会と試合案内の NHK 神戸放送局よりのニュースの放映。大会当日、急遽サン TV のニュース放映のための取材、時間の都合上放映されませんでしたが、TBS の2日間の取材等と突如脚光を浴びた大会でもありました。

準備、運営にあたって

猛暑の中、25日の会場設営から始まり、26日の本間、仲田両氏の技術講習会、26・27日の日本代表候補選手の合宿、そして、全日本大会の開催であったが、大会間際に TV 局の取材申し込みがあり、ビーチハンドのイメージアップの為、会場及び、ユニフォームの調整に大変でした。結果的には全国版の TBS「サンデーモーニング」は当日の時間の都合上取り消しとなり残念でしたが、来シーズンも夏のスポーツとして取り上げたいと言っていました。また、地元の神戸新聞はビーチハンドの特集を組んでくれるそうですし、NHK 神戸局は近畿地区の特番を組みたい意向もあるようです。報道関係者によると新たな魅力を感じているようです。

日本協会を始めとしてビーチハンドを普及、発展（売り出す）させるための体制（戦略）作りが急務ではないかと思われます。ただ、関西地区で行われると参加チームが少ないことも残念である。近畿地区で普及の為の講習会（技術・審判）を開催するとしても、先ず会場設営の予算面で躓いてしまうことになる。例えば、ゴールポストを運ぶにもトラックが必要となる事等。会場許可を取るにも体育館やグランドのように簡単にいかないのが実情である。ビーチスポーツ発展の為にも、国に早急に働きかけ、ビーチスポーツゾーンの設置をお願いしたいものです。我々とすれば、普及の為の講習会には何らかの援助がないものかと思います。この競技は普及する多くの要素を持っており、必ず発展します。

今後の課題

世界選手権、ワールドゲームズ、アジアビーチゲームズ等と海外での試合も多くなってきており、国内の大会でも正規のユニフォームを義務づける時期に来ているように思われます。そして、普及を考えると、競技派、レジャー派に区分するのも一考と思われます。

最後に、この大会で初優勝された日体大（男子）、3年ぶり優勝（5回目）あぶらおおめ（女子）に心から賛辞を送ると共に、第2回アジアゲームズ（オマーン・マスカット）に日本代表として選ばれた選手諸君、ビーチハンド発展の為にも、上位入賞を期待しています。大会開催にあたり、ご指導、ご協力いただいた日本協会を始め、兵庫県、神戸市の各団体、大会を応援していただいた神戸新聞、アシックス、モルテン等の各企業に心からお礼を申し上げます。また、まれにみる猛暑の中、素晴らしいプレーを見せてくれた選手諸君、大会を陰から盛り上げていただいた大会役員関係の皆様、本当にありがとうございました。

優勝チームの声

日本体育大学

田渕 元雄

今回、第12回全日本ビーチハンドボール選手権大会に参加して優勝出来たことは、とても嬉しく思います。

私達日本体育大学は、今期初めてビーチハンドに参加することになりました。初めての参加とは言え、出場するからには優勝しなければならないという使命感を持って一戦一戦臨んできました。今大会は、千葉で行われたスプリングカップとサマーカップに続き、３大会目であり、前の２大会では優勝することが出来ずに悔しい思いでいっぱいでした。そんな中、前回・前々回とは違い、慣れてきたという部分で選手は気持ちに余裕ができ、ビーチハンドを思いきり楽しみながら、プレーに専念する姿が見られました。

今回予選リーグでは、兵庫選抜、HC大阪、葵クラブと対戦しました。予選リーグは、動きに固さがあり立ち上がりが悪く、パスミス、シュートミスなど簡単なミスが目立ちました。どの試合も厳しい戦いでしたが、なんとか全勝で予選リーグを突破することが出来ました。

決勝トーナメントでは、アップを入念に行い体の準備を万全にしました。準決勝の東海weeds戦ではその甲斐あってか、体も良く動き、見ていて気持ちの良い試合をすることが出来ました。そして、決勝戦。相手はスプリング、サマーと負けているFSTでした。今回、３度目と言うことで、もう負けられないという強い気持ちで試合に臨みました。結果ミスも少なく、日頃から走り込んできた成果を存分に発揮でき、見事念願の初優勝をすることが出来ました。

今回優勝できたのも、応援してくださった皆様方、お世話になった先生方、そして、チームがリーグ戦で厳しい状況の中、快くビーチハンドに送り出して頂きました松井先生、関わっていただいたすべての方々に、大変感謝しております。また、今大会の準備、運営にご尽力下さりました関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。今後、ビーチハンドの普及、発展していくよう、ビーチの魅力を伝えていけたらと思っています。ありがとうございました。

あぶらおおめ

藤平 晃子

すでに７～８年、ビーチハンドボールの大会に参加しているメンバーが中心の「あぶらおおめ」。

２年前、富浦でのビーチの決勝で負けたことで「神戸で優勝！」を合言葉に乗り込みました。結局、神戸でも負け、同じく準優勝で大会を終えました。しかし、ビーチハンドはいつも楽しく、経験と声の大きさ、年齢の高さではどこにも負けない「あぶらおおめ」は、もう一度神戸の全日本ビーチに出たいね、と思い続けて２年ぶりの参加となりました。

今年は、母体となるクラブで参加した東日本クラブ選手権で準優勝。昨年から参加している横浜ビーチでも準優勝。今度こそ「神戸で優勝！」と心の中では思いつつ、ひさびさに舞子海岸へ向かいました。ＵＰを見ているだけでも、男女ともピルエットシュートもスカイプレイも次々に出てくる展開。ふと周りを見回すと、「あぶらおおめ」は出場チームの中では経験も年齢もダントツでトップ！

こうなったら合言葉は「若さにアタック！」に変更！

高校生チームの応援もしつつ、必死に若者と戦い、めずらしくショットアウトもなく、全試合ストレート勝ちで優勝することができました！　平均年齢30歳超のチームとしては快挙だと勝手に思っています。

初めてビーチハンドの大会に出場した頃に比べるとレベルは確実に上がっていると思いますが、これからも「若さにアタック！」を合言葉に、楽しく熱く、経験が生かせるビーチハンドボールの普及に、みんなで努めていきたいと思います。



最後になりましたが、大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。また、日本代表のアジア・世界での活躍を楽しみにしています！

第12回 男子アジアジュニア選手権大会 報告

12th Asian Men's Junior Handball Championship

選手団団長 田中　茂

【開催期日】平成22年7月23日～8月1日
【開催国】イラン・テヘラン
【参加国】グループA：イラン・UAE・バーレーン（3カ国）　グループB：カタール・韓国・日本・シリア（4カ国）
【世界選手権出場】上位3カ国
【試合結果】［予選1］日本　32（15－13・17－21）34　カタール
［予選2］日本　26（13－15・13－14）29　韓国
［予選3］日本　44（21－15・23－7）22　シリア
［5位決定戦］日本　31（14－15・17－13）28　バーレーン
【最終順位】1位 カタール　2位 韓国　3位 イラン　4位 UAE　**5位 日本**　6位 バーレーン　7位 シリア

今大会の目標としていた男子ジュニア世界選手権出場権獲得を果たす事はできなかった。合宿当初から日本代表のスタイルとしてスピーディなハンドボール、ディフェンスの機動力をフルに活かしての、速攻の展開を攻撃の中心に考え取り組んできた。セットオフェンスでも同様に、高さがない選手たちがいかに位置取り（ポジショニング）の素早さ、ボール回しでの展開の速さを武器として戦えるよう攻撃を考え、また、最終的なシュートミスを無くす為にもシュート練習に時間をかけトレーニングし大会に臨んだ。

大会での試合内容は、最終的にはミスによる自滅での敗北であるが、日本以外の国が強烈な印象を与え強いチームであったかと言うと、私はそうは思わない。決して強がりではなく、言い訳でもなく、しっかりとアジアの国を分析した結果である。当然ではあるが、中東を中心に選手の大型化（外国からの帰化選手を含め）が進んでいる、大型選手故に体格、体力を使った攻撃中心で、ハンドボール技術、戦術の理解度はジュニア段階では不十分であったと思う。日本はそこに付け入る隙があったと感じているが、日本も勝ちきるまでの力が備わってなかった、備えさせてやることができなかった事が反省としてある。しかしジュニア年代がアジアのライバル国と公式試合ができたことは彼らの今後の活動に刺激になり、また現段階での自分たちの力がわかった大会であった。

選手たちは今まで日本国内のトップ選手であり、その実力に甘んじていた部分が多く、国際レベルでの自分たちの実力（精神面・フィジカル面）の無さに気づいていなかった。今回初めて気づいたことが一番の成果であった。ただ、その中でも選手たちが試合を重ねるごとに持てる力（実力）を発揮すること、そして、なにより勝つためには執念が必要であることの認識が高まってきた事は良かった点である。やはり国際試合を経験し今後の課題として勝つために必要な体力、精神力、技術力を向上させなければならない事に気付いた事は非常に成果があったと感じている。また最重点強化項目として時間をかけた、スピードあるハンドボールを目標にしてきた事、速攻での得点力、攻撃での早いパス回しからの展開での攻撃のきっかけは、まだまだ満足いく内容ではない。選手たち自身がスピードハンドボールの中での正確さの追求を、今大会で理解し、トレーニングに対する意識を持続するためにも今後も継続的に合宿の課題として取り組んでいかなければならない。

課題として、アジア・世界で勝つために何が必要で何を強化（フィジカル強化）しなければならないかは選手個人が理解したと思う。

大会全体の感想としては、中東（カタール・UAE）の外国人帰化選手問題が今後、日本にとってアジアを勝ち抜く上で大きな課題、問題（各カテゴリーアジアを勝ち抜くために）となるのではないかと感じた。

最後になりましたが、今大会参加するに当たり選手所属大学、また多くの関係者にご協力賜りました事を深く感謝いたします。ありがとうございました。

［大会情報］第16回アジア競技大会

このアジア大会は、来年10月開催予定のロンドンオリンピックアジア予選に向けて大事な大会です。
ぜひ好成績を収めてロンドンオリンピック出場への好スタートをきってほしいものです。

開催期間：2010年11月12日（金）－27日（土）
開 催 国：中国・広州　University Town (Huashi Gymnasium, Guanggong Gymnasium)
参 加 国：≪男子≫［Aグループ］カタール、中国、**日本**、サウジアラビア、インド、モンゴル
［Bグループ］クウェート、イラン、韓国、バーレーン、香港
≪女子≫［Aグループ］韓国、チャイニーズタイペイ、タイ、カタール（初）
［Bグループ］**日本**、中国、インド、北朝鮮
*アンダーラインは、前回第15回ドーハ大会に不出場のチーム

競技方法：２グループによる予選リーグ（１回戦総当り方式）後、各グループ上位２チームによる決勝トーナメントにより順位を決定する。

市原則之副会長
第16回アジア競技大会（中国・広州）日本選手団団長



2010年11月12日（金）－27日（土）に中国・広州で開催される「第16回アジア競技大会」において、市原副会長（JOC専務理事）は日本選手団団長を務めます。今大会の日本選手団は、男子410名、女子329名、他役員で総勢1100名となり、これまで最多の広島大会（1994年）1017名を上回り、史上最多の派遣となります。

市原副会長は、2006年12月の第15回アジア競技大会（カタール・ドーハ）では“日本選手団総監督”、2008年北京オリンピックでは“日本選手団副団長”を務められていますが、団長は初めてであります。ハンドボール界ではいずれも初のことであります。

医事委員会だより

広州アジア大会を通したオリンピックシュミレーション　サポートハウスの活用について

日　時：平成22年10月1日（金曜日）13時30分~18時00分
会　場：味の素ナショナルトレーニングセンター　大研修室
参加者：佐久間克彦、小笠原一生（JISS研究員）、中山剛

現在それぞれの強豪国では、統括組織が情報・医学・科学によるサポートを駆使し、国をあげて支援体制の整備を行っている。しかし、JOCは2001年3部門の委員会を立ち上げ活動してきたが各部門の情報交換の場が存在しなかった。そこで、2012年ロンドンオリンピック及び2014年ソチオリンピックで　Team Japanとして戦うために、3部門のサポートの実情把握と、より効果的なサポート体制を目指すためにカンファレンスが開催された。

主たる内容は、アジア大会に向けたサポート体制において村外サポート体制「マルチサポート・ハウス」の設営を行う。アメリカ、オーストラリアの強豪国はシドニーオリンピックから選手村の外にサポート拠点を設けて競技力向上に努め、好成績を収めている。またアジアの国でもシンガポールが同様の活動を行っている。日本においては、以前より柔道が、さらにバンクーバーオリンピックではスケートも同様の活動を行い良い結果を導いている。それらのノウハウを活用してロンドンに向けたシュミレーションとして広州アジア大会でこの活動を行う。そのための、利用内容の詳細についての周知報告が行われた。

また、高所（低酸素）環境でのサポートと題して、今年のサッカーワールドカップで実績をあげられた三重大学杉田正明先生より詳細に事前準備の段階から大会における現場の実情についての報告があった。さらに「暑熱環境でのサポート」と題して、発汗の基礎的な知識から給水の仕方、身体冷却法、運動における暑さ対策について　陸上競技連盟科学委員会　石井好二郎氏より大変理解しやすい講演があった。

〜地の利生かせ 五輪予選〜

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

日本リーグは熱戦を展開中だが、今年は過去と異なり１年後に迫ったロンドン・オリンピック・アジア予選へ臨む日本代表強化につながるような気迫にあふれた戦い、プレーをしたいものである。

アジア連盟はアジア予選を男女とも来年10月開催を決め、加盟各国に通達。日本協会はさっそく「男女開催」に名乗りを挙げた。

前回の北京大会は「中東の笛」問題で、再試合を行うという異例の予選となったのは、記憶に新しいところである。

国内開催地としてはバルセロナ大会予選を手がけた広島が早速名乗りを挙げるなど、招致活動が進められている。過去５大会をみると、アトランタ大会を除いてバルセロナ、シドニー、アテネは男女、北京は男子をそれぞれ開催した。しかし、残念ながら日本の出場はすべて夢に終わっている。

だから「今度こそは」の期待が高まるのは当然であろう。今や"悲願"となった予選突破は、日本球界全体の声であることは間違いないところである。

11月には中国・広州でアジア大会、来年１月にはスウェーデンで男子の世界選手権が開かれるなど、日本リーグも変則日程となっており、選手にはハードになるが、ここは一つ、リーグ１試合、１試合を熱いプレーで盛り上げ、各選手の戦略や質を高めてもらいたいものだ。

先にも触れたように、最近のオリンピック予選は日本国内でほとんど行われている。海外に出掛けて戦う場合とは、多くの面でプラスに働くことは言うまでもない。海外での戦いは、移動をはじめ食事、練習を含めた環境などハンディがあることは当然である。そうしたことを考えれば、コンディションの調整も国内と比べ格段に難しさがある。

だから日本協会も"悲願"達成には「地の利」を生かそうと、国内開催に尽力してきたはずである。だが、その思いはいまだに届いていない。目的が達成されないたびに「またか…」と再三、歯ぎしりしてきたことはご存じの通りである。

強化は間違いなく進み、男女とも着実に成長していることもまた事実である。その間「中東の笛」に何度も涙を飲み、また、対戦相手の猛烈な対抗意識に屈してきた経緯もある。

勝負には、戦力だけでなく、強いメンタリティーや駆け引きも欠かせない要素である。ホイッスルと同時に相手を飲み込むくらいの強い信念を持って臨むことが重要である。「ロンドン」予選でまた出場権を逃がすと、メディアの注目度も薄れてくる。今回はなんとしても日本開催を実現させ「地の利」を生かし、感動を共有したいものだ。

JHDMA®
社団法人日本通信販売協会会員



6カ月間洗浄がいらない
PREMIUM
ドクター・水素水®

多くのアスリートや
スポーツ愛好家の
方々にも愛飲されて
います。





健康は毎日の飲料水から

水道水から作れるので
1日わずか25円と
とても経済的です。

水素(H2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

※日本国特許第4252434号
※アメリカ合衆国特許番号:USP 7,189,330
※中国特許登録:ZL 2005 1 0068852.5
※韓国特許登録:529006号
※国際特許申請中

6ヶ月間
1ヶ月に一度の穀物酢洗浄なし

従来品より原材料が 1.5倍

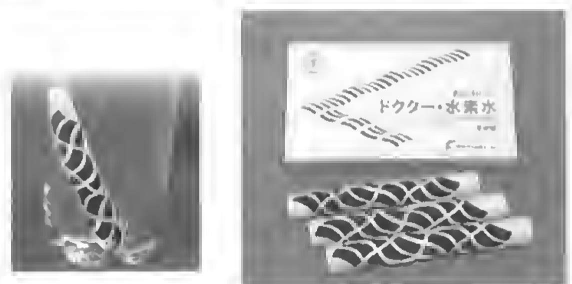
水素量が 30%up

経過日数	溶存水素濃度 (ppm)	
	プレミアムスティック	従来スティック
1日	1.43	1.04
1カ月	0.76	0.71
2カ月	0.79	0.62
3カ月	0.82	0.56
4カ月	0.86	0.42
5カ月	0.88	0.29
6カ月	0.80	0.23

試験条件:
1本／500ml PETボトル
溶存水素濃度計測後
毎日全量水交換

計測機器:
エイブル株式会社製
溶存水素濃度計 DHS-001

ドクター・水素水 PREMIUM



ドクター・水素水 PREMIUM
1箱3本入り
メーカー希望小売価格
6ヶ月タイプ 13,440円(税込み)

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル **0120-372-132**（みんなに いーみず）

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
www.aboutsuisosui.com



第14回 女子 U-16 日韓スポーツ交流

【期間】
派遣：9月4日～10日
受入：9月13日～18日

【親善試合結果】
派遣：日本　17（7－13、10－10）23　韓国
受入：日本　18（8－7、10－12）19　韓国

女子 U-16 コーチ　尾石 智洋

1．交流全般について（親善試合含め）

U16 の強化を念頭に置き、角団長のもと、藤本ヘッドコーチを中心に、尾石コーチ、辻コーチ（派遣時）、細津コーチ（受け入れ時）、高野コーチ（受け入れ時）がスタッフを組み強化選考合宿を行い、16 人のメンバーで親善試合に向け取り組んできた。

藤本ヘッドコーチから以下のチーム方針が出された。

日本代表チームの基準が、U-16 チームの基準である。

・世界に、特に韓国に勝てるチームを目指す。
・愛されるチーム（応援されるチーム）を目指す。
・社会に認められるチームを目指す

また、ゲームの基本コンセプトについては

・テンポの速いゲーム
・アグレッシブな防御→速攻への切り替え
・ダイナミックな動きのある攻撃

を意識し、練習に取り組んでいった。練習試合も何本か行っていきながら、チーム作りが行われていった。実際に、限られた時間の中でのチーム作りに戸惑うところもあったが、日に日に気持ちもひとつになっていった。そして、派遣時の親善試合では、立ち上がりの悪さが最後まで響き、後半追い上げたが、残念ながら勝つことができなかった。その反省を生かし、受け入れ時には、①失点を抑えること。②継続できる攻撃の展開。③声を出し続ける。ことを目標に、親善試合に向け練習を行った。また、韓国では、毎年のことだがとても親善・文化国流に力を入れてくれ、選手たちもお互いに仲良くなった。

そして、受け入れ時の親善試合では、粘り強い展開で前半 8 対 7 と 1 点リードで折り返し。後半相手の左利きの攻撃により相手ペースに変わりつつも、日本の粘りで、ラスト 41 秒同点。そこで、日本タイムアウト。1 点取りに行くものの、GK に阻まれ、逆にラスト 11 秒韓国 33 番 RW のスカイプレーにて決勝点。18 対 19 の 1 点差で敗れた。試合終了後、選手たちは悔しさのあまり号泣していた。

選手たちはこの交流を通して、たくさんのことを学んだと思う。オリンピックに向けての第 1 歩が悔しさとなったが、必ずや上のカテゴリーで勝つことを誓い、この合宿を終えた。

2．参加者からの声

キャプテン・佐々木 春乃

昨年の日本での親善試合、今年の韓国での親善試合では、立ち上がりの悪さが敗因のひとつであった。今年の日本での親善試合では粘り強く食らい付きとても良い立ち上がりになった。韓国に追いつき、逆転した時には簡単にシュートを打ってしまい、OF を継続するという目標が自分のせいでできませんでした。そんな時、周りから、「もっとボールをつないでいこう」と声をかけられ、意識しながらプレーできました。リードしていましたが、追いつかれてしまい、勝負どころでの精神面での弱さが出てしまい、負けて悔しかったです。

この悔しさを持ち続け、次の挑戦では必ず勝ちます。

副キャプテン・安田 絢恵

韓国と何回か練習試合をしていく中で、やっていくごとに力の差が埋まってきたと思いました。日本チームは韓国に負けない多くの声を出し頑張りました。でも試合に負けてとても悔しかったです。今回 U16 で学んだことを生かしてこれから頑張ります。

ポストプレーヤー・永田 美香

日本は、1人1人が勝つという気持ちの強いチームでした。練習や試合を重ねるたびにチームがまとまっていきました。最後までチームとして戦うことができましたが、2年連続で負けた悔しさは絶対に忘れません。関係者の皆様のおかげで、このような活動をさせていただき本当にありがとうございました。この貴重な経験を今後の練習に生かし、必ず韓国に勝ちます。



第２回日韓小学生ハンドボール親善交流会

日程：2010年8月23日（月）－27日（金）
場所：韓国・河南市　河南体育館

【男子】
京田辺市立桃園小 19(4-11, 15-12)23 河南市立東部初等学校
京田辺市立桃園小 23(12-17, 11-10)27 河原道チャソン初等学校

【女子】
富山選抜　16 (5-13, 11-10) 23　護政市立カヌン初等学校
富山選抜　14 (3-11, 11- 7) 18　河原道ファンジ初等学校

実り多い日韓交流
―第２回日韓小学生親善交流会を終えて―

（財）日本ハンドボール協会小学生委員長　山本 繁

8月23日（月）から27日（金）まで、大韓民国河南市において『第２回日韓小学生ハンドボール親善交流会』が開催されました。昨年の第１回は、韓国チームが来日し京都府で開催されている『全国小学生大会』の開会式にゲスト参加し、出場チームと練習試合をしました。その後、富山県氷見市を訪れ小学生チームや中学生チームと練習試合や合同練習をしました。今年は日本チームが訪韓する番でしたので、昨年受け入れをした京都府と富山県のチームを派遣することとし､京都府は全国大会で常に上位の｢桃園小学校男子チーム｣､富山県は全国制覇経験の仏生寺小学校を主体とする「富山県選抜女子チーム」を派遣しました。

韓国の小学生は、基礎練習をしっかり積んでいるのでステップワークが上手で、松ヤニを使用していることもありボールを片手で操作することが当たり前でボールスピードも速く、体も大きく軸がしっかりした動きでした。したがって、ディフェンスはワンフェイントで抜かれ、何とか押さえても片手でボールを保持したままポストやサイドにパスされ、素早い攻撃をなかなか止めることができませんでした。特に、センタープレーヤーはどのチームも落ち着きのあるクレバーなプレーヤーで、ゲーム全体をよく読んでゲームをコントロールしていました。ディフェンスも必ず２人で挟むように守り、基礎練習の成果がよく表れた模範的なディフェンスをしていました。それでも、日本チームも小柄ながらよく動き回り、サイドシュートやパスカットからの速攻などで果敢に反撃していました。

合同練習では、言葉が通じないながらも身振り手振りで聞き合い教え合いながら、真剣に取り組んでいました。特に、ステップワークや１対１フェイントでは、バリエーションある基礎メニューを徹底的に反復練習していました。それが試合にしっかりと生きていることを痛感させられました。

親善交流という面からは、韓国ハンドボール協会や河南市ハンドボール協会、そして韓国小学校ハンドボール連盟の温かな歓迎に心打たれました。韓国協会の、「隣国日本と仲良く交流していきたい」という気持ちの表れであると受け止めました。合同練習での子どもたちの自然に打ち解ける姿は、正に感動ものでした。また、今回の通訳は、今年も韓国協会の金玉花さんでしたが、そのほかにも富山県協会からも女性が１名、さらに韓国チームのコーチで日本にいた方が２名いて、合わせて４名の通訳役がいました。韓国語を理解するのに大変助かり、より有意義な親善交流会となりました。

今後、今回のこの事業の成果をしっかりまとめ、日本の小学生チームのレベル向上に役立てていきます。

本事業のまとめ（成果と課題）

１．合同練習

○合同練習会を２回、半日ずつ持つことができた。
　韓国コーチの主導で、ステップワークや投球モーション、多彩なシュートといった小学生への基礎を教えていただいた。

○韓国の６年生のエース級の子どもたちが、熱心に親身に教えていた。

○日本の子どもたちは、真剣に指導を受けていて、次の試合で使う子もいた。

○今回の通訳は、韓国協会の通訳と富山協会のコーチだけでなく、河南市の中学校のコーチ、ファンジ小のコーチが日本語を話せたので、詳しく説明を聞くことができた。

２．交流試合や練習から学んだこと

○ボールをしっかり片手で握る
　片手で握って、腕を振ったり手首を自在に動かしてプレーすることを基本とする。
　日本では、松ヤニを使って体育館で練習することは不可能ではあるが、ボールを片手でしっかり握ってプレーすることは徹底していきたい。

○ステップワークを徹底する
　ケンパ遊びから始まって､複雑なステップや速いステップ､軽やかで距離のあるジャンプステップへ、段階を踏んで細やかに身に付けさせている。
　多彩なステップのプログラムが、コーチの指示無しでも自然にできるよう、準備運動等で使える、『ステップ練習メニュー』をプログラムして提案していきたい。

○ボールスピードが速い
　コンパクトなモーション、手首の使い方、速い腕の振り、等々の練習メニューもあり、速くて多彩でしかも力強いボールを投げている。また、どんな体勢でもそれができるよう､パスキャッチやランパスにもしっかり取り組んでいる。
　今後日本でも、小学生でも「山なりパス」を無くすよう指導の徹底を図りたい。

○ポストプレーの大切さ



フローターはディフェンスに捕まっても片手でボールをキープし、その間にポストプレーヤーや別のフローターが、ボールをもらえる位置に（ディフェンスを引きずってでも）移動してくる。そんな連携プレーが当たり前にできている。

3．交流事業として

○子どもたちは、練習会で仲良くなり、休憩時間も、宿舎でも、交流していた。子どもの純粋無垢な一面を目の当たりして、感動した。

○男子桃園小、女子富山選抜、ともにりっぱな子どもたちで、特に節度ある態度、健康管理、ハンドボールへの真剣な姿勢に感服した。指導の賜であると実感した。

○韓国協会、河南市協会、韓国小学校連盟、ともにこれらの皆様から手厚い歓迎を受け、韓国ハンドボール関係者が、日本との交流を大事にしたいという気持ちを強く感じ、大変感激した。今後、日本ハンドボール協会としてもこの事業を大切に育てていきたい。

監督・選手の声（男子）

日韓交流を終えて

男子チーム監督　石田 真由美

この度、日韓交流の場を設けていただきありがとうございました。今回の韓国の男子選手は日本選手と体格はさほど変わらず、身長も少し高いくらいのチームでしたが、プレーの上ではステップの速さ、１歩でずらすステップ、ディフェンスを惑わす多様なパス、スナップの利いたシュート、見れば見るほど韓国のプレーに圧倒されるばかりでした。やはり、松やに使用であるから出来るパスプレーだと感じます。

今の日本は小学生では松やにの使用や両面テープの使用は認められていない分、韓国とのプレーの差が出ている。韓国では小学生から松やにを使用してプレーしているのが当たり前の環境。私達も韓国に行く前に数日ではあったが松やにや両面テープでプレーをさせました。始めはボール扱いに戸惑い、ボールを離す感覚が持てず、とんでもないパスやシュートの繰り返しでしたが、慣れてくるとやはり、パスが多様になりプレーに幅が出来ていきました。日本でも小学生からの松やに使用を認めていくことで、今後のプレーに大きな変化があると思います。

また、韓国のフットワークでのステップ、足さばきの技術を習得することだと思います。体幹をしっかり保ち、下半身の強化と足さばきステップワークを習得していく必要性があると感じました。ですが、走る力やシュート力などでは韓国に負けないものを持っています。今後の日本の小学生指導について技術の追求も当然ではあるが、環境も頭に入れて考えていかなくてはならないと思います。

今回、このような遠征に参加させて頂き、たくさんの方のご協力に感謝します。

韓国遠征を振り返って

桃園小学校６年　白柳 郁弥

仁川空港に着いた時、目に入ったのはハングル文字や、韓国語の会話など、さっぱり分からず、この時点で初めて韓国に来たことを実感しました。言葉も料理も文化も違う韓国で僕は多くのことを学びました。

試合では、韓国のチームには身長の大きな選手が多くて、僕たちのチームは必死で守っても抜かれてしまったり、フォーメーションをくずされたり、カットされたりで、なかなか点を取らせてもらえませんでした。僕達のチームも日ごろの練習の成果を出し切って、一生懸命プレーしたけれども、結

果は負けてしまいました。韓国チームのシュートの確実性、パス回しのスピードと技術、相手を翻弄するコンビネーションなど、大変参考になりました。僕達の守備の弱さをはじめ、自分のプレーの未熟さや、チームの反省点なども自覚することができました。そして、この試合で学んだことを今後に生かしていこうと思います。

合同練習では、通訳をしてもらいながら、韓国の選手の動きを見て、まねて、色々なシュートやステップ、フェイントなど、多くの技術を教えてもらいました。ポジションごとに指導してもらうこともあり、全て勉強になりました。今後の試合でうまく使えたらいいなと思いながら練習に取り組んでいました。

韓国では、試合や合同練習だけではなく観光や韓国チームの人たちと、一緒に買い物にも行きました。

観光では、歴史あるお城に行き、昔の王様が寝ていた部屋などを見ることができ、授業でも少し習ったことも出てきたので、日本と韓国は深い関係があるんだと思いました。

次に、ロッテワールドに行き、色々なアトラクションを楽しみました。中でも一番恐かったのが「ジャイロドロップ」で、落下中は息が苦しくてできませんでした。でも、とても面白い乗り物だったのでもう一回みんなで乗りました。たくさん遊んだ後は買い物をしました。家族や親戚にお土産やお菓子を買うことができました。

韓国での買い物は、日本の円と違い、ウォンになり、百ウォンが約８円なので計算しながら買い物をするのも良い経験でした。お金の単位だけでなく、韓国と日本の違いを多々感じることがありました。例えば、韓国にはカラスがいないと聞き、意識して見ると本当に１羽も見あたりませんでした。

また、様々な料理を韓国でご馳走になりました。中でも、ナムルやキムチがとても美味しかったです。でも全体的に韓国の食べ物は日本より辛かったです。その国ならではの色々な文化があり、実際に行ってみないと分からないこともあり、もっと韓国のことを知るためにもう一度行きたいと思いました。

最後に僕は韓国の選手と交流ができ本当に良かったと思います。言葉は違っても同じ小学生なので身振り手振りで伝え合い、すぐに友達になれました。外国人の友達ができ、とても嬉しかったです。ハンドボールを頑張ってきたことで、今回このような経験ができて、ありがとうございました。素晴らしい思い出になりました。

監督・選手の声（女子）

第２回日韓親善交流会を終えて

女子チーム監督　西　裕之

今回、国境を越え、韓国のチームと交流する貴重な体験をさせていただき、多くことを学ぶことができました。そして、日本と韓国のジュニア期のレベル違いを痛感させられました。



第一には、ボール保持の仕方です。韓国は松ヤニが使用できます。そのことによって、当たり前のようにラテラルパスができることや、シュート直前までボールを体の後ろで保持し、より大きな遠心力でシュートが打てることには、大きな違いを感じました。

第二には、体の軸のバランスです。韓国の選手は、軸がぶれない状態でシュート体勢を保てるため、より正確なコースへとシュートを放つことができていました。

第三には、徹底された基礎トレーニングの反復練習です。特に０ステップの足の運び方や、フットワーク練習は大いに参考になりました。

今回、韓国の全国大会で優勝、準優勝したチームと試合をする機会がありました。技術面、体格面ともに、力の差を感じました。攻撃の破壊力はもちろん、ディフェンス力の高さも感じ、思うような攻めはできませんでした。しかし、サイドからのシュートやパスカットからの速攻など、日本の選手が出せる力を発揮した場面もいくつかありました。選手にとっては、力の差を実感しただけでなく、これからの自分にどのようなスキルを身に付けなければならないのか、見つめるよい機会になったと思います。

最後になりますが、今回の遠征に際し、日本ハンドボール協会に多大なご支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

日韓交流に参加して

富山ジュニア選抜キャプテン　寺山 美妃

初めて韓国の小学生と試合をするのは、とても不安でした。韓国の全国大会で優勝したチームの選手は体を大きく、声もすごくよく出ていたので、勝てそうにないなと思いました。試合は松ヤニを使うことに慣れず、パスミスをたくさんしてしまいました。相手のスピードが速く、なかなか止められませんでした。ディフェンスもプレッシャーが強く、なかなか点が取れませんでした。

私は、今回富山ジュニア選抜のキャプテンをして、韓国のチームのように、もっと明るく、声の出るチームにしていきたいと思いました。韓国の小学生にフェイントやシュートの打ち方をたくさん学べたので、これからの練習に生かしていきたいです。

ヨーロッパのハンドボールLIFE

ドイツのプロ生活と、世界へ挑戦する選手に伝えたいこと

EHV Aue
植松 伸之介

私は現在『EHV Aue』という、ドイツ東部でチェコとの国境のすぐ近くにあるAue（アウェ）という小さな街にあるクラブに所属しています。

クラブは現在ドイツ・ブンデスリーガ2部南地区に所属していて、今年で18年連続でブンデスリーガ2部に所属している、伝統あるクラブです。

同じ街にサッカーのクラブ（同じくブンデスリーガ2部）もあり、ハンドボールと人気を二分していて、ドイツの国技ともいえるサッカーには人気は敵わないものの、ハンドボールもホームでの試合会場は毎試合ほぼ満員で、熱気のある応援が会場を更に盛り立ててくれています。

EHV Aueのシーズン09/10の戦績は、18チーム中13位でリーグ残留を決めたものの、リーグ終盤に怪我人が多く出て黒星が続いたため、順位を落としてしまった事が悔やまれます。私自身は左サイドで34試合に出場して74得点でした。

私が初めてドイツに来たのが2000年の6月。入団テストを経て、当時ブンデスリーガ2部に所属していたクラブConcordia Delitzsch（コンコルディア・デーリッチ）というクラブの2軍に入団し、翌年から同クラブの1軍に昇格して、ドイツでのプロ選手としての活動がスタートし、リーグ優勝・



1部リーグでのプレーを経て、2006年に現在のクラブへ移籍しました。

『プロ選手』の定義とは何かという事は人それぞれ考え方は違うと思いますが、私自身ではドイツに来る前に思い描いていた目標であるブンデスリーガでプレーして給料をもらえる選手になった時がプロになる時だと思っていたので、初めて大勢の観客で埋まった会場でプレーし、一つ目の目標が達成された試合は鳥肌が立ち涙が出るほど嬉しく、自分がどんなプレーをしたのか興奮してほとんど憶えていません。

プロ選手としてクラブと契約すると、内容は選手それぞれ違いますが、給料・家・車その他の条件が与えられます。初めての年の給料はそれほど多くなかったですが、出場時間や結果と共に年々増えていくことが自分の評価でもあるので励みになります。その他の条件として、日本一時帰国時の渡航費やガソリン代の支給などもあります。外国人選手のほとんどはプロ選手ですが、ドイツ人の選手は他に仕事をしている選手や学生の選手も沢山います。

私のドイツでのハンドボール選手としての生活は、リーグ期間中は基本的に週末の試合に向けたトレーニングを中心に動いています。

月曜日は週末の試合の疲労を取る為に夕方のトレーニングで軽めのジョギングと筋トレ。

火・水・木曜日は朝と夕の2回トレーニングで、火・木曜日はボールを使ったテクニック・戦術＆実践トレーニング、水曜日はアスレチックトレーニング。

金曜日は試合前の調整をして、週末の試合になります。

試合は基本的にホームとアウェイを交互に繰り返し、18チーム34試合を9月から5月までかけて戦い、毎年1・2月はヨーロッパ選手権と世界選手権が交互にあるのでリーグは一時中断します。

ドイツ東部でブンデスリーガに所属するクラブは少なく、アウェイ試合の移動は全てバスの為、片道最短3時間・最長約7時間隔週で移動します。移動は大変で疲労も溜まりますがチームのバスはとても快適で、テレビ・トイレ・ビールサーバーも付いていて、バス後部が円卓になっていてミーティングも可能です。クラブの世話役が作ってくれる軽食のミニビュッフェもあります。各選手2座席を1人で使えるので、各々パソコンしたり読書したり寝袋を持ち込んで本格的に寝る選手などなど、比較的快適に過ごせますが、6時間以上移動の時は前泊することもあります。

毎日のトレーニングは、ホームでの会場となる体育館で、朝は9時、夕方は18時半から、一回のトレーニングの時間はMax 2時間。内容は、各自アップから始まり、サッカー・バスケット・ハンドボール・ラグビー・フリスビーなどを使

った日替わりの様々なミニゲームでウォーミングアップ。その日のテーマ（DF中心かOF中心か）に沿った準備としてのトレーニングを経てその日のメインテーマへ、という流れでトレーニングは進みます。練習時間が２時間というのはドイツに来る前から聞いていて、日本でもヨーロッパの練習時間は短いことを知っている人は多いと思いますが、日本で中・高校の厳しく長いトレーニングを経験した私には物足りなさすら初めの頃は感じたほどです。



そこで私がしたことは、その２時間を徹底的に集中する事、チームトレ後に補強としてしっかり個人で筋トレして当たり負けない身体を作る事、そして『やり方』に気をつけることです。一つ目は２時間と時間が決められているので簡単に出来る事。二つ目は大型選手と互角に当たりあうのは無理としても、当たられてもバランスを保って自分のプレーが出来るように。最後は自分の持ち味であるアシストプレー・スピード・テクニックを活かす為の間の取り方・入り方・味方の活かし方に気をつけること。

最初の二つは当たり前の事だけれど、最後の一つは私がドイツに来て身を持って感じた事です。ヨーロッパのハンドボールは世界でもレベルが高く、特にドイツはトップレベルですが、それが全てではなく、私が日本で学んで身につけてきたハンドボールがドイツで通用することも事実です。私は特に身体能力が高いわけでもなく、ガツガツ得点を取りに行くタイプではありませんが、戦術理解・状況判断そしてアシストや楔となるプレーが私の持ち味です。これは高校時代に恩師である渡辺先生から教わった今でも自分の教訓としている言葉で「やり方でどうにでもなる」「人を生かして自分も生きる」という言葉があります。この言葉は大きな外国人選手を相手にする上でとても役立ちました。これから世界に挑戦する日本の選手、そして日本のナショナルが世界で戦う上で、この考え方が参考になるのではないかとも私は考えています。

そして、私がもう一つこれから世界へ飛び出して挑戦しようとする選手に伝えたい事は、『俺はハンドボールをしに来てるんだから、他の事はどうでもいい』という考えは持たないで欲しいということです。私はドイツに来て10年、リーグ優勝、世界最強リーグと言われるドイツ１部リーグでのプレーなど様々な経験を通し、ハンドボール選手としてだけでなく、人間としてもレベルアップが出来たと思います。初めは言葉の問題や日本にいては感じることの無いストレスももちろんあります。しかし、そこから学ぶ事も沢山あり、ハンドボールはもちろん、まったく違う文化や様々な人種の人達と接することによって、沢山の友達や知り合いが出来た事、そして人間力のレベルアップが出来たと実感できた事が私にとって一番の収穫であり、一生の宝となりました。これからの日本の若い選手は、世界に出てハンドボールはもちろん、様々な世界レベルを体で感じて吸収し、それをまた日本のハンドボールに還元する事によって全体的なレベルアップになります。アジアはもちろん世界でも互すレベルになり、オリンピック・世界選手権への道へとつ繋がるのではないでしょうか。

私は今年で35歳になり、チームでもCP最年長になりましたが、現役選手で日本人である以上ナショナル選手は常に目標にしています。しかし、まずは目先の試合に集中して、長いリーグを戦っていこうと思います。

まだ先のことはあまり考えていませんが、後数年ドイツでプレーして現役を終えてからは（日本リーグでプレーすることはもう無いと思います…）、私がドイツで経験した事をカテゴリーに関係なく日本の選手に伝え、そこからまた世界に挑戦する選手が出てくれれば嬉しいし、中学校から高校そして大学のチームへではなく、高校を卒業したら海外のクラブへ移籍という選手が日本からも普通に出てくるレベルになって欲しいと思っています。

最後に、日本リーグは年々ファンも増えて盛り上がってきていると聞いています。

日本では私のような海外でプレーする選手の活動はなかなか伝わりにくいと思いますが、チャンスがあれば海外で活躍する日本人選手にも応援をもらえたらとても励みになりますので、宜しくお願いします！

審判部報告

2010 JHA 公認レフェリーコース前期 体験記

岩手県ハンドボール協会
岩手医科大学１年 谷藤 航／岩手県立花巻北高校３年 中島 航／岩手県立不来方高校３年 佐々木 太一

平成22年8月16日から18日までの3日間、滋賀県立長浜ドームを会場に平成22年度JHA公認レフェリーコース前期が開催されました。北は岩手県から、南は徳島県まで計16人が参加し、日本協会審判部の越田審判審査指導委員長をはじめとする講師の方々に、ハンドボール競技には欠かすことのできないレフェリーの役割、存在意義について教えていただきました。レフェリーとしてゲームを担当するだけでなく、ハンドボール競技そのものと関わっていく姿勢や心構えについて改めて考えることができ、非常に有意義な研修だったと感じています。

講師の方々から特に指導していただいたのは、「競技規則に忠実なレフェリング」、「判定の基準や内容が速やかに正しく伝わるようなレフェリング」、「正当なプレーを大いに評価することができるレフェリング」というものでした。しかし、講義で理解したことをすぐにゲームの中で実践することは大変難しく感じました。さらは、審査されているというプレッシャーもあってか、初めの審判は自分の持ち味を出せないままに終わってしまったことを反省しています。しかしゲーム後に担当の先生から自分達のレフェリングについての詳しい講評をいただき、自分達の課題を抽出したり、改善策を考えたりすることができました。少しずつですが自信を持って判定できるようになり、よりわかりやすい説明やジェスチャー、選手とのコミュニケーションにまで気を配れるように心掛けて行いました。また、私たちレフェリーにとって選手から素晴らしいパフォーマンスを引き出すために安全を確保し、危険なプレーに対しては厳粛な態度で対処するということが大きな役割ということも教えていただきました。

最後になりましたが、私たちの大きな目標は国際レフェリーになることです。そのためには吹笛する1試合1試合で常に高い目的意識を持ち、他の方から積極的にアドバイスを頂き自分のものにしていくことが大切だと思っています。また国際試合を担当する上では、今回のように見ず知らずの集団の中でも自分のことを相手に伝えることができるコミュニケーション能力が必要だと感じました。来年3月のレフェリーコース後期までに自分達の目標をさらに確固たるものとし、実現に向けて努力し続けていきたいと思います。

今回は貴重な経験をさせていただきました、日本協会の審判部をはじめこの事業に関わっていただいた多くの皆様に感謝し、私たちの体験記とします。



スコアールーム① 第15回ジャパンオープントーナメント

開催期日：2010年8月13日(金)～17日(火)
会　場：山口県周南市・キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター／周南市鹿野総合体育館

【男子】

■1回戦

Honda(三重)	27	(17－10、10－11)	21	金沢市役所ハンドボール部(石川)
洛北クラブ(京都)	34	(17－11、17－15)	26	つくば学園ハンドボールクラブ(茨城)
HC岡山(岡山)	25	(12－12、13－12)	24	FST(東京)
ホンダ熊本(熊本)	39	(19－12、20－10)	22	宮城クラブ(宮城)
HC山口(開催地)	34	(17－5、17－9)	14	FHC(福岡)
高知クラブ(高知)	24	(10－11、14－9)	20	右肩あがり(奈良)
総社クラブ(岡山)	32	(16－9、16－15)	24	自衛隊久里浜(神奈川)
各務原市キャロット(岐阜)	44	(24－4、20－5)	9	北村山クラブ(山形)
長崎社中(長崎)	26	(13－7、13－11)	18	大同クラブ(愛知)
日新製鋼(広島)	38	(18－13、20－16)	29	HC秋田(秋田)
チーム群馬(群馬)	35	(17－14、18－13)	27	きときとクラブ(富山)
ボンチフェローズ(大阪)	31	(13－15、18－11)	26	香川クラブ(香川)
埼玉教員クラブ(埼玉)	43	(22－12、21－10)	22	HC福島(福島)
徳山クラブ(山口)	32	(15－12、17－15)	27	今治ハンドボールクラブ(愛媛)
スワロークラブ(兵庫)	31	(13－11、18－12)	23	小松クラブ(石川)
FOG(千葉)	45	(21－11、24－13)	24	那覇西クラブ(沖縄)

■2回戦

Honda	28	(8－7、20－9)	16	洛北クラブ
ホンダ熊本	29	(13－11、16－14)	25	HC岡山
HC山口	33	(16－10、17－6)	16	高知クラブ
総社クラブ	31	(11－13、20－11)	24	各務原市キャロット
長崎社中	32	(14－7、18－7)	14	日新製鋼
チーム群馬	28	(16－13、12－14)	27	ボンチフェローズ
埼玉教員クラブ	33	(19－13、14－14)	27	徳山クラブ
FOG	40	(19－10、21－13)	23	スワロークラブ

■準々決勝

Honda	23	(11－9、12－10)	19	ホンダ熊本
HC山口	37	(17－8、20－13)	21	総社クラブ
長崎社中	37	(17－14、20－14)	28	チーム群馬
FOG	42	(21－9、21－15)	24	埼玉教員クラブ

■準決勝

Honda	31	(15－11、16－10)	21	HC山口
長崎社中	23	(8－8、15－14)	22	FOG

■3位決定戦

HC山口	24	(14－8、10－11)	19	FOG

■決勝

Honda	26	(15－10、11－12)	22	長崎社中

*Hondaは初優勝

【女子】

■1回戦

香川銀行T・H(香川)	57	(29－2、28－2)	4	岩手桐花クラブ(岩手)
小松クラブ女子(石川)	26	(13－14、13－9)	23	HC岡山(岡山)
ninfa・kagoshima(鹿児島)	31	(10－13、14－11／4－1、3－0)	25	白梅三英芙会(岩手)
京都クラブ(京都)	32	(17－8、15－11)	19	かながわガビアーノ(神奈川)
HC高山(岐阜)	28	(13－9、15－10)	19	レキオクラブ(沖縄)
IPU Stars(岡山)	22	(9－6、13－10)	16	埼玉・白小鳩(埼玉)
徳山クラブ(開催地)	36	(19－5、17－8)	13	JJ、GANG(福井)
GET"S(兵庫)	36	(18－14、18－14)	28	HC東京VENUS(東京)

■2回戦

香川銀行T・H	43	(19－9、24－6)	15	小松クラブ女子
京都クラブ	30	(16－8、14－12)	20	ninfa、kagoshima
HC高山	31	(16－5、15－3)	8	IPU Stars
徳山クラブ	22	(11－6、11－8)	14	GET"S

■準決勝

香川銀行T・H	39	(20－4、19－9)	13	京都クラブ
徳山クラブ	32	(16－18、16－13)	31	HC高山

■3位決定戦

HC高山	27	(12－11、15－7)	18	京都クラブ

■決勝

香川銀行T・H	32	(19－5、13－10)	15	徳山クラブ

＊香川銀行T・Hは4年連続4度目の優勝

スコアールーム② 第37回全国高等専門学校ハンドボール大会

開催期日：2010年8月17日(火)～19日(木)
会　場：石川県金沢市・いしかわ総合スポーツセンター

■第1ブロック

熊本高専八代	23	(14－11、9－11)	22	徳山高専
熊本高専八代	18	(6－9、12－8)	17	明石高専
徳山高専	30	(16－12、14－11)	23	明石高専

■第2ブロック

金沢高専	19	(9－7、10－8)	15	津山高専
金沢高専	21	(12－3、9－13)	16	東京高専
津山高専	29	(13－6、16－11)	17	東京高専

■第3ブロック

北九州高専	27	(10－14、17－12)	26	石川高専
北九州高専	27	(14－14、13－10)	24	香川高専高松
石川高専	28	(13－12、15－13)	25	香川高専高松

■第4ブロック

一関高専	30	(14－15、16－11)	26	鈴鹿高専
一関高専	26	(11－9、15－10)	19	函館高専
鈴鹿高専	29	(13－13、16－13)	26	函館高専

■準決勝

金沢高専	22	(11－7、11－5)	12	熊本高専八代
一関高専	30	(11－12、19－14)	26	北九州高専

■決勝

金沢高専	22	(10－8、12－12)	20	一関高専

＊金沢高専は、初優勝

スコアルーム ③

第39回全国中学校大会

開催期日：2010年8月17日（火）～20日（金）
会　場：広島県呉市・呉市総合体育館／呉市体育館／日新製鋼体育館

【男　子】

■ 1回戦

小島（長崎）	33（17－16、16－12）28	東久留米西（東京）
竜山（兵庫）	24（14－13、10－9）22	朝明（三重）
塩江（香川）	28（12－13、16－11）24	豊中第二（大阪）
三松（宮崎）	33（19－14、14－15）29	安居（福井）

■ 2回戦

氷見南部（富山）	21（10－6、11－11）17	小島（長崎）
大体大附（大阪）	35（18－12、17－16）28	白子（三重）
けやき台（茨城）	25（12－6、13－13）19	総社西（岡山）
松園（岩手）	35（17－11、18－15）26	竜山（兵庫）
日吉（長崎）	31（13－15、18－12）27	塩江（香川）
本通（北海道）	32（16－14、16－14）28	甲田（広島）
平針（愛知）	41（20－11、21－14）25	平山（東京）
岩国（山口）	40（18－14、22－11）25	三松（宮崎）

■ 準々決勝

大体大附	25（13－10、12－11）21	氷見南部
けやき台	33（20－13、13－13）26	松園
日吉	30（14－5、16－11）16	本通
平針	28（9－11、19－10）21	岩国

■ 準決勝

けやき台	31（11－16、20－10）26	大体大附
平針	34（18－14、16－13）27	日吉

■ 決　勝

平針	30（12－9、18－8）17	けやき台





【女　子】

■ 1回戦

西條（富山）	26（12－8、14－13）21	西中原（神奈川）
滝ノ水（愛知）	15（7－2、8－9）11	仲西（沖縄）
鶴城（熊本）	27（13－8、14－13）21	住吉（山口）
郡山第一（福島）	33（19－4、14－3）7	亀山（広島）

■ 2回戦

西條（富山）	25（12－14、13－10）24	住吉第一（大阪）
琴浦（岡山）	29（13－10、16－14）24	笹川（三重）
東久留米西（東京）	31（13－10、18－7）17	培良（京都）
香川第一（香川）	20（8－8、12－6）14	滝ノ水（愛知）
鶴城（熊本）	27（15－8、12－12）20	本通（北海道）
平針（愛知）	33（18－6、15－8）14	大住（京都）
三郷北（埼玉）	25（13－13、12－11）24	光陽（福井）
原川（大分）	27（11－5、16－6）11	郡山第一（福島）

■ 準々決勝

西條	25（13－11、12－12）23	琴浦
香川第一	17（9－9、8－5）14	東久留米西
平針	26（10－7、16－6）13	鶴城
三郷北	32（14－11、12－15 / 3－0、3－2）28	原川

■ 準決勝

西條	19（11－6、8－12）18	香川第一
平針	23（9－4、14－10）14	三郷北

■ 決　勝

平針	28（14－5、14－8）13	西條

スコアールーム④ 第12回全日本ビーチハンドボール選手権大会

開催期日：8月28日(土)～29日(日)
会　場：兵庫県神戸市・「アジュール舞子」海岸特設コート

【男　子】

■予選Aブロック

FST	2－0	東海Weeds
FST	2－0	海自江田島
FST	2－0	立命館ビーチHC
東海Weeds	2－0	海自江田島
東海Weeds	2－0	立命館ビーチHC
海自江田島	2－0	立命館ビーチHC

■予選Bブロック

日体大男子	2－1	HC大阪
日体大男子	2－0	兵庫選抜
日体大男子	2－0	葵クラブ
HC大阪	2－1	兵庫選抜
HC大阪	2－0	葵クラブ
兵庫選抜	2－0	葵クラブ

■準決勝

FST	2－1	HC大阪
日体大男子	2－0	東海Weeds

■決　勝

日体大男子	2－0	FST

【女　子】

■リーグ戦

シャイン	2－1	風見鶏クラブ
風見鶏クラブ	2－0	まるもっこり
あぶらおおめ	2－0	日体大女子
あぶらおおめ	2－0	まるもっこり
シャイン	2－0	日体大女子
シャイン	2－0	まるもっこり
あぶらおおめ	2－0	風見鶏クラブ
日体大女子	2－0	まるもっこり
風見鶏クラブ	2－0	日体大女子
あぶらおおめ	2－0	シャイン

[最終順位]
①あぶらおおめ　②シャイン　③風見鶏クラブ
④日本体育大学女子　⑤まるもっこり

スコアールーム⑤ 第30回全国クラブ選手権大会西地区大会

開催期日：2010年9月18日(土)～20日(月)
会　場：和歌山市・和歌山ビッグホエール

【男　子】

■予選Aブロック

HC神戸	23(10－5、13－11)16	Links
HC神戸	16(8－5、8－7)12	中央クラブ
Links	17(10－2、7－8)10	中央クラブ

■予選Bブロック

愛知教員	22(10－8、12－6)14	下松クラブ
下松クラブ	20(14－5、15－4)9	粉河送球部
愛知教員	27(13－2、14－6)8	粉河送球部

■予選Cブロック

チーム・フォルス	21(8－9、13－8)17	HC大垣
チーム・フォルス	26(12－6、14－6)12	H.C.愛媛Armada
H.C.愛媛Armada	18(9－5、9－11)16	HC大垣

■予選Dブロック

FALCOM	18(10－7、8－8)15	岡山クラブ
HC大分	24(9－9、15－10)19	FALCOM
HC大分	28(12－7、16－14)21	岡山クラブ

■9－11位決定戦

中央クラブ	28(15－5、13－8)13	粉河送球部
HC大垣	21(11－7、10－5)12	岡山クラブ

■5－7位決定戦

下松クラブ	22(10－3、12－12)15	Links
FALCOM	25(14－9、11－11)20	H.C.愛媛Armada

■準決勝

愛知教員	13(8－3、5－4)7	HC神戸
HC大分	23(11－12、12－6)18	チーム・フォルス

■3位決定戦

HC神戸	26(13－10、6－9)19	チーム・フォルス

■決　勝

愛知教員	19(8－13、11－5)18	HC大分

【女　子】

■1回戦

ナデシコクラブ	18(10－5、8－6)11	ORANGE BIRD
NYHC	19(7－8、12－5)13	RUNRUNS
那覇西クラブ	24(12－8、12－7)15	Ocean
大阪教員	16(9－4、7－6)10	香川レディース

■5－8位決定1回戦

ORANGE BIRD	20(7－10、13－4)14	RUNRUNS
Ocean	18(10－10、8－7)17	香川レディース

■7位決定戦

RUNRUNS	15(7－7、8－6)13	香川レディース

■5位決定戦

Ocean	20(11－10、9－6)16	ORANGE BIRD

■準決勝

NYHC	19(8－7、6－7／3－0、2－1)15	ナデシコクラブ
大阪教員	19(12－8、7－8)16	那覇西クラブ

■3位決定戦

ナデシコクラブ	21(12－6、9－9)15	那覇西クラブ

■決　勝

NYHC	20(11－6、9－9)15	大阪教員

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【岩　手】佐久間　都歌　【東　京】飯田　信行、折橋　裕智、平賀　とみ子、床尾　佳剛、泉　直樹
【神奈川】田中　さよ子、種村　明彦　【愛　知】禰津　行雄、田中　基明、小林　勇、西　みどり、鈴木　みなみ、鈴木　貴斗、牧野　千別　【京　都】錦織　峰子　【大　阪】伊藤　慎吾　【広　島】青戸　克好
【福　岡】安河内　正路

【11月の行事予定】

【会　議】
11月６日(土)　第２回理事会（東京）

【大　会】
11月12日(金)～27日(土)
第16回アジア競技大会（中国・広州）

11月19日(金)～23日(火)
男子53回女子46回全日本学生選手権（大阪市）
11月20日(土)～21日(日)
第８回日本車椅子競技大会（和歌山市）

HANDBALL CONTENTS Nov.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

ANA

あんしん、
あったか、
あかるく元気!

ANA



福原愛(ANA)

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五一四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二十二年十月二十六日印刷 平成二十二年十一月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇一九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円